

(様式第10)

東医大発 第249号

令和 7 年 10 月 5 日
開設者名 学校法人 東京医科大学
理事長 林 由起子

厚生労働大臣 殿

東京医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒160-8402 東京都新宿区新宿6-1-1
氏名	学校法人東京医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

東京医科大学病院

3 所在の場所

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1
電話(03)3342-6111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

☐	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
☐	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科						有	
内科と組み合わせた診療科名等							
☐	1呼吸器内科	☐	2消化器内科	☐	3循環器内科	☐	4腎臓内科
☐	5神経内科	☐	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			☐	11リウマチ科
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	臨床検査科	2	形成外科	3	リハビリテーション科	4	病理診断科	5	糖尿病代謝内分泌内科
6	老年内科	7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
19	0	0	0	885	904

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	756	501	785.4	看護補助者	54	診療エックス線技師	0
歯科医師	19	34	20.8	理学療法士	26	臨床検査技師	134
薬剤師	77	2	78	作業療法士	6	衛生検査技師	0
保健師	8	0	8	視能訓練士	15	その他	0
助産師	48	2	48.8	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	1,223	40	1,247	臨床工学士	28	医療社会事業従事者	15
准看護師	0	0	0	栄養士	0	その他の技術員	12
歯科衛生士	5	1	5.3	歯科技工士	2	事務職員	306
管理栄養士	29	3	29.7	診療放射線技師	83	その他の職員	23

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	46	眼科専門医	11
外科専門医	39	耳鼻咽喉科専門医	8
精神科専門医	8	放射線科専門医	12
小児科専門医	24	脳神経外科専門医	6
皮膚科専門医	10	整形外科専門医	12
泌尿器科専門医	4	麻酔科専門医	18
産婦人科専門医	11	救急科専門医	6
		合計	215

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (阿部信二) 任命年月日 令和 7 年 9 月 9 日

医療安全管理委員会
委員 令和2年4月～令和5年6月 委員 令和6年9月～令和7年7月
委員長 令和7年8月～令和7年9月(病院長職務代理として) 委員長 令和7年10月～現在(病院長代行として)

院内病因死因(M&M)検討会
委員 平成30年2月～令和2年3月 委員 令和6年9月～現在

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	788.2 人	10.4 人	798.6 人
1日当たり平均外来患者数	2,429.4 人	123.8 人	2,553.3 人

1日当たり平均調剤数	1,750.5	剤
必要医師数	219.995	人
必要歯科医師数	8.19	人
必要薬剤師数	27	人
必要(准)看護師数	485	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定方法に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	1,437.97 m ²	鉄骨造	病床数	32 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	178.99	m ²	病床数	11 床
	[移動式の場合]	台数		台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	46.81	m ²		
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	149.84 m ²	鉄骨造	(主な設備)	生化学自動分析装置、全自動化学発光免疫測定装置		
細菌検査室	96.36 m ²	鉄骨造	(主な設備)	微生物感受性分析装置、血液培養全自動分析装置		
病理検査室	431.12 m ²	鉄骨造	(主な設備)	排気機能付切出しシンク、自動染色装置など		
病理解剖室	75.02 m ²	鉄骨造	(主な設備)	排気装置付L型解剖台など		
研究室	1,470.26 m ²	鉄骨造	(主な設備)			
講義室	1,294.05 m ²	鉄骨造	室数	14 室	収容定員	991 人
図書室	686.61 m ²	鉄骨造	室数	1 室	蔵書数	131,824 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	82.8	%	逆紹介率	59.1	%
算出根拠	A:紹介患者の数		27,923 人		
	B:他の病院又は診療所に紹介した患者の数		21,959 人		
	C:救急用自動車によって搬入された患者の数		2,818 人		
	D:初診の患者の数		37,138 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
落合 和徳	医療法人社団三成会 新百合ヶ丘総合病院 常勤顧問	○	東京慈恵会医科大学附 属病院副院長(医療安 全担当)としての勤務経 験があり、医療安全に 関する学会理事及び婦 人科領域における代表 者を務めるなど公職経 験も豊富であり、専門的 識見を有する者	無	1. 医療に係る安全管理又は法 律に関する識見を有する者その 他の学識経験を有する者
安原 幸彦	東京南部法律事務所 弁護士		弁護士として法律事務 所に勤務しており、医療 過誤訴訟等の経験や医 療に係る法律に関する 識見を有する者	無	1. 医療に係る安全管理又は法 律に関する識見を有する者その 他の学識経験を有する者
桑原 公平	西新宿六丁目町会 会長		建設系一般事業会社で の勤務経験を有し、区 議会議員を経て近隣地 区町会長を現任する、 医療を受ける者の一般 的な観点から発言がで きる、非医療従事者に 該当する者	無	2. 医療を受ける者その他の医 療従事者以外の者(1.に掲げる 者を除く。)

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法 大学・病院ホームページ	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
子宮内細菌叢検査1	1人
子宮内細菌叢検査2	0人
子宮内膜受容能検査1	1人
子宮内膜受容能検査2	0人
膜構造を用いた生理学的精子選択術	9人
ヒアルロン酸を用いた生理学的精子選択術	0人
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	13人
細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	0人
子宮内膜刺激術	0人
子宮腺筋症病巣除去術	1人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	10
取扱い患者数の合計(人)	25人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
術前のゲムシタビン静脈内投与及びナブーパクリタキセル静脈内投与の併用療法	0人
自己骨髄由来培養間葉系細胞移植による完全自家血管新生療法	1人
S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法	0人
周術期デュルバルマブ静脈内投与療法	2人
術後のアスピリン経口投与療法	2人
不可逆電気穿孔法	2人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	6
扱い患者数の合計(人)	7人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	切除不能局所進行膵癌に対する高密度焦点式超音波療法	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 切除不能局所進行膵癌に対する高密度焦点式超音波療法			
医療技術名	悪性十二指腸閉塞に対する超音波内視鏡下胃空腸吻合術	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 悪性胃・十二指腸狭窄に対してHot AXIOSシステムを用いて超音波内視鏡下胃空腸吻合術を行う			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	2
取り扱い患者数の合計(人)	15

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	特発性大腿骨頭壊死	6
2	筋萎縮性側索硬化症	6	57	下垂体性ADH分泌異常症	4
3	原発性側索硬化症	1	58	下垂体性PRL分泌亢進症	2
4	進行性核上性麻痺	15	59	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
5	パーキンソン病	135	60	下垂体前葉機能低下症	27
6	大脳皮質基底核変性症	2	61	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
7	シャルコー・マリー・トゥース病	1	62	サルコイドーシス	69
8	重症筋無力症	105	63	特発性間質性肺炎	31
9	視神経脊髄炎	24	64	肺動脈性肺高血圧症	8
10	多発性硬化症	98	65	慢性血栓性肺高血圧症	45
11	慢性炎症性脱髄性多発神経炎	1	66	リンパ脈管筋腫症	5
12	封入体筋炎	1	67	網膜色素変性症	21
13	多系統萎縮症	4	68	原発性胆汁性肝硬変	12
14	脊髄小脳変性症	7	69	原発性硬化性胆管炎	6
15	ミトコンドリア病	1	70	自己免疫性肝炎	26
16	もやもや病	15	71	クローン病	20
17	全身性アミロイドーシス	9	72	潰瘍性大腸炎	109
18	遠位型ミオパチー	1	73	好酸球性消化管疾患	15
19	神経線維腫症	4	74	チャージ症候群	2
20	天疱瘡	3	75	TNF受容体関連周期性症候群	1
21	表皮水疱症	1	76	非典型溶血性尿毒症症候群	1
22	膿疱性乾癬(汎発型)	8	77	先天性ミオパチー	1
23	汎発型膿疱性乾癬	1	78	マリネスコ・シェーグレン症候群	1
24	スティーヴンス・ジョンソン症候群	6	79	筋ジストロフィー	2
25	中毒性表皮壊死症	2	80	脊髄空洞症	5
26	高安動脈炎	9	81	脊髄髄膜瘤	2
27	巨細胞性動脈炎	7	82	脳表ヘモジデリン沈着症	1
28	結節性多発動脈炎	5	83	痙攣重積型二相性急性脳症	2
29	顕微鏡的多発血管炎	13	84	ミオクロニー欠伸てんかん	1
30	多発血管炎性肉芽腫症	8	85	レノックス・ガストー症候群	2
31	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	8	86	ウエスト症候群	13
32	悪性関節リウマチ	1	87	早期ミオクロニー脳症	1
33	バージャー病	4	88	片麻痺	33
34	全身性エリテマトーデス	133	89	スタージ・ウェーバ症候群	2
35	多発性筋炎	13	90	結節性硬化症	25
36	皮膚筋炎	49	91	先天性魚鱗癬	2
37	全身性強皮症	22	92	家族性良性慢性天疱瘡	1
38	混合性結合組織病	6	93	類天疱瘡	2
39	シェーグレン症候群	196	94	特発性後天性全身性無汗症	1
40	成人スチル病	4	95	弾性線維性仮性黄色腫	1
41	再発性多発軟骨炎	1	96	マルファン症候群	13
42	ベーチェット病	68	97	エーラス・ダンロス症候群	11
43	特発性拡張型心筋症	23	98	メンケス病	3
44	肥大型心筋症	43	99	ウィルソン病	18
45	再生不良性貧血	17	100	プラダー・ウィリ症候群	2
46	自己免疫性溶血性貧血	14	101	1p36欠失症候群	1
47	発作性夜間ヘモグロビン尿症	7	102	22q11.2欠失症候群	1
48	特発性血小板減少性紫斑病	31	103	エマヌエル症候群	1
49	血栓性血小板減少性紫斑病	4	104	三尖弁閉鎖症	2
50	原発性免疫不全症候群	4	105	ファロー四徴症	3
51	IgA腎症	43	106	アルポート症候群	4
52	多発性嚢胞腎	11	107	急速進行性糸球体腎炎	25
53	黄色靱帯骨化症	3	108	抗糸球体基底膜腎炎	5
54	後縦靱帯骨化症	26	109	一次性ネフローゼ症候群	1
55	広範脊柱管狭窄症	3	110	紫斑病性腎炎	3

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	間質性膀胱炎(ハンナ型)	10	166		
112	副甲状腺機能低下症	19	167		
113	ビタミンD抵抗性くる病	2	168		
114	フェニルケトン尿症	1	169		
115	高チロシン血症1型	1	170		
116	リジン尿性蛋白不耐症	1	171		
117	家族性地中海熱	20	172		
118	壞疽性膿皮症	7	173		
119	強直性脊椎炎	20	174		
120	軟骨無形成症	1	175		
121	後天性赤芽球癆	2	176		
122	自己免疫性出血病XIII	4	177		
123	先天性横隔膜ヘルニア	1	178		
124	胆道閉鎖症	4	179		
125	IgG4関連疾患	49	180		
126	黄斑ジストロフィー	7	181		
127	レーベル遺伝性視神経症	1	182		
128	アッシュー症候群	1	183		
129	若年発症型両側性感音難聴	9	184		
130	遅発性内リンパ水腫	3	185		
131	好酸球性副鼻腔炎	51	186		
132	遺伝性自己炎症疾患	1	187		
133	無虹彩症	2	188		
134	特発性多中心性キャッスルマン病	1	189		
135	線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)	1	190		
136			191		
137			192		
138			193		
139			194		
140			195		
141			196		
142			197		
143			198		
144			199		
145			200		
146			201		
147			202		
148			203		
149			204		
150			205		
151			206		
152			207		
153			208		
154			209		
155			210		
156			211		
157			212		
158			213		
159			214		
160			215		
161			216		
162			217		
163			218		
164			219		
165			220		

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	135
合計患者数(人)	2,051

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
医療DX推進体制整備加算	情報通信機器を用いた診療に係る基準
地域歯科診療支援病院歯科初診料	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
歯科外来診療医療安全対策加算2	ハイリスク妊娠管理加算
歯科外来診療感染対策加算3	ハイリスク分娩管理加算
歯科診療特別対応連携加算	術後疼痛管理チーム加算
特定機能病院入院基本料(一般病棟の場合)7対1	呼吸ケアチーム加算
特定機能病院入院基本料(精神病棟の場合)13対1	後発医薬品使用体制加算1
救急医療管理加算	病棟薬剤業務実施加算1
超急性期脳卒中加算	病棟薬剤業務実施加算2
診療録管理体制加算1	データ提出加算
医師事務作業補助体制加算1 30対1	入退院支援加算1
急性期看護補助体制加算 25対1	認知症ケア加算1
看護職員夜間配置加算	せん妄ハイリスク患者ケア加算
看護補助加算2	精神疾患診療体制加算
療養環境加算	精神科急性期医師配置加算
重症者等療養環境特別加算	排尿自立支援加算
無菌治療室管理加算1	地域医療体制確保加算
放射線治療室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	救命救急入院料4
緩和ケア診療加算	特定集中治療室管理料1
精神科身体合併症管理加算	総合周産期特定集中治療室管理料
精神科リエゾンチーム加算	小児入院医療管理料1
摂食障害入院医療管理加算	・
栄養サポートチーム加算	・
医療安全対策加算1	・
感染対策向上加算1	・
患者サポート体制充実加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料	外来栄養食事指導料の注2に規定する基準
外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	遠隔モニタリング加算(ペースメーカー指導管理料)
糖尿病合併症管理料	がん性疼痛緩和指導管理料
がん性疼痛緩和指導管理料の注2に規定する難治性がん性疼痛緩和指導管理加算	がん患者指導管理料イ
がん患者指導管理料ロ	がん患者指導管理料ハ
がん患者指導管理料ニ	外来緩和ケア管理料
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	糖尿病透析予防指導管理料
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	婦人科特定疾患治療管理料
腎代替療法指導管理料	一般不妊治療管理料
生殖補助医療管理料1	二次性骨折予防継続管理料1
二次性骨折予防継続管理料3	下肢創傷処置管理料
慢性腎臓病透析予防指導管理料	院内トリアージ実施料
外来放射線照射診療料	外来腫瘍化学療法診療料1
外来腫瘍化学療法診療料の注8に規定する連携充実加算	外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算
ニコチン依存症管理料	がん治療連携計画策定料
外来排尿自立指導料	肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料	医療機器安全管理料1
医療機器安全管理料2	医療機器安全管理料(歯科)
歯科治療時医療管理料	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
在宅経肛門的自己洗腸指導管理料	救急患者連携搬送料
持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
染色体検査の注2に規定する絨毛染色体検査	遺伝学的検査の注1に規定する基準
BRCA1/2遺伝子検査	骨髓微小残存病変量測定
先天性代謝異常症検査	がんゲノムプロファイリング検査
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)

検体検査管理加算(4)	検体検査管理加算(1)
遺伝カウンセリング加算	国際標準検査管理加算
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	遺伝性腫瘍カウンセリング加算
ヘッドアップティルト試験	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
光トポグラフィー	長期継続頭蓋内脳波検査
神経学的検査	終夜睡眠ポリグラフィー(安全精度管理下で行うもの)
黄斑局所網膜電図	補聴器適合検査
ロービジョン検査判断料	全視野精密網膜電図
小児食物アレルギー負荷検査	コンタクトレンズ検査料1
経頸静脈的肝生検	内服・点滴誘発試験
精密触覚機能検査	前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)
画像診断管理加算4	画像診断管理加算1
遠隔画像診断	血流予備量比コンピューター断層撮影
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)
冠動脈CT撮影加算	CT撮影及びMRI撮影
心臓MRI撮影加算	外傷全身CT加算
小児鎮静下MRI撮影加算	乳房MRI撮影加算
肝エラストグラフィ加算	頭部MRI撮影加算
外来化学療法加算1	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
心大血管疾患リハビリテーション料(1)	無菌製剤処理料
運動器リハビリテーション料(1)	脳血管疾患等リハビリテーション料(1)
がん患者リハビリテーション料	呼吸器リハビリテーション料(1)
集団コミュニケーション療法料	歯科口腔リハビリテーション料2
児童思春期精神科専門管理加算	救急患者精神科継続支援料
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導 管理料に限る。)	静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
多血小板血漿処置	エタノールの局所注入(甲状腺)
エタノールの局所注入(副甲状腺)	人工腎臓
導入期加算 2及び腎代替療法実績加算	透析水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
難治性抗コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	ストーマ合併症加算
歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算	光学印象
CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	歯科技工加算1及び2

皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節加算	皮膚移植術(死体)
組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算
骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)	後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)
椎間板内酵素注入療法	腫瘍脊椎骨全摘術
緊急穿頭血腫除去術	原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
舌下神経電気刺激装置植込術	角結膜悪性腫瘍切除術
角膜移植術(内皮移植加算)	羊膜移植術
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	毛様体光凝固術(眼内内視鏡を用いるものに限る。)
網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	網膜再建術
経外耳的内視鏡下鼓室形成術	植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
人工中耳植込術	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
内視鏡下鼻・副鼻腔手術5型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。)	内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)	頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
顎関節人工関節全置換術(歯科)	乳癌センチネルリンパ節生検加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)(乳癌センチネルリンパ節生検加算1)
頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科)	乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
乳癌センチネルリンパ節生検加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)(乳癌センチネルリンパ節生検加算2)	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡下手術用支援機器を用いる場合)
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で、内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので、内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	内視鏡下筋層切開術
胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)

食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻 閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	胸腔鏡下弁置換術
胸腔鏡下弁形成術	経皮的僧帽弁クリップ術
経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的 大動脈弁置換術)	不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの))
不整脈手術(左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの))	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
経皮的中隔心筋焼灼術	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	補助人工心臓
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング 機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	内視鏡的逆流防止粘膜切除術
経皮的下肢動脈形成術	腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))
腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))	腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	腹腔鏡下肝切除術
腹腔鏡下総胆管拡張症手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	体外衝撃波膵石破碎術
胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下膵中央切除術
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)	腹腔鏡下仙骨膣固定手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

精巣温存手術	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下仙骨膣固定術	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
腹腔鏡下膣式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	体外式膜型人工肺管理料
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術	輸血管管理料1

[illegible]

.	.
---	---

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・該当なし	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	皮膚科、乳腺科カンファレンス: 週1回 リンパ腫カンファレンス: 年4回 CPC : 年11回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	21
	剖検率(%)	3

1) 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こ

(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

NO	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	更年期の母の育児に関する実態調査と脳神経基盤の解明～サポートシステム構築に向けて	石井 礼花	精神医学分野	3,900,000	独立行政法人 日本学術振興会
2	注意欠如多動症児の「尊厳」の概念を診療に導入する教育システム開発研究	石井 礼花	精神医学分野	1,300,000	独立行政法人 日本学術振興会
3	不眠症状からプレゼンティーズムを高精度で予測するスクリーニング基準の開発	高野 裕太	睡眠学寄附講座	650,000	独立行政法人 日本学術振興会
4	うつ病発症におけるレジリエンスの役割に関する研究	井上 猛	精神医学分野	780,000	独立行政法人 日本学術振興会
5	ハイスルグループの肥大型心筋症における病態形成機序の解明	稲垣 夏子	循環器内科学分野	1,170,000	独立行政法人 日本学術振興会
6	培養細胞を用いた機械的肺障害モデルにおけるaquaporinの役割と治療の検討	石井 友理	救急・災害医学分野	650,000	独立行政法人 日本学術振興会
7	炎症を消退させる機能を有する角膜リンパ管の機序の解明および治療への応用	成松 明知	眼科学分野	1,474,000	独立行政法人 日本学術振興会
8	前頭前野被刺激反応による依存症としての真のゲーム障害の特定および診断スコアの開発	呉 宗憲	小児科・思春期科学 分野	1,430,000	独立行政法人 日本学術振興会
9	内視鏡外科手術における教育評価システム開発に向けた手術効率性分析	永川 裕一	消化器・小児外科学 分野	260,000	独立行政法人 日本学術振興会
10	代謝を介した腫瘍免疫機構の解析に基づいた骨髄腫予後因子同定と治療層別化の探索	田中 裕子	血液内科学分野	780,000	独立行政法人 日本学術振興会
11	広範なライフステージで糖尿病が認知機能に与える影響の解明	鈴木 亮	糖尿病・代謝・内分泌内科学分野	780,000	独立行政法人 日本学術振興会
12	小崎過成長症候群患者iPS細胞由来脳血液関門モデルを用いた疾患メカニズムの解明	奥野 博庸	小児科・思春期科学 分野	780,000	独立行政法人 日本学術振興会
13	専門的口腔ケアによる心不全患者の予後改善効果に関する検討	椎名 一紀	循環器内科学分野	1,170,000	独立行政法人 日本学術振興会
14	COPD病態におけるオートファジーとガレクチン8の役割の全体像の解明	河野 雄太	呼吸器内科学分野	650,000	独立行政法人 日本学術振興会
15	カペオラ介在性アルブミンエンドサイトーシス阻害による普遍的なCKD治療薬の探索	森山 能仁	腎臓内科学分野	1,170,000	独立行政法人 日本学術振興会
16	乾癬の病態形成におけるTGF-βシグナルの役割	大久保 ゆかり	皮膚科学分野	1,040,000	独立行政法人 日本学術振興会
17	Bcr-Ablチロシンキナーゼ阻害薬外用剤におけるアトピー性皮膚炎の治療効果	伊藤 友章	皮膚科学分野	1,170,000	独立行政法人 日本学術振興会
18	メタボローム解析を用いた肝転移切除後の再発予測バイオマーカーの探索	石崎 哲央	消化器・小児外科学 分野	1,170,000	独立行政法人 日本学術振興会
19	小細胞肺癌における神経変性疾患関連分子の役割の解明と新規個別化治療への応用	嶋田 善久	呼吸器・甲状腺外科 学分野	260,000	独立行政法人 日本学術振興会
20	冷凍保存法と飽和食塩溶液固定法を用いたブタ臓器による外傷手術手技研修の開発応用	本間 宙	救急・災害医学分野	1,040,000	独立行政法人 日本学術振興会
21	ブタ臓器を用いたACS領域の腹腔鏡手術手技研修システムの開発	谷野 雄亮	救急・災害医学分野	1,300,000	独立行政法人 日本学術振興会
22	ペリサイト制御とオートーシス抑制によるけいれん重積型急性脳症への新規治療戦略	山中 岳	小児科・思春期科学 分野	1,040,000	独立行政法人 日本学術振興会
23	悪性頭蓋内腫瘍に対する光ファイバーを用いた光線力学的療法の開発	深見 真二郎	脳神経外科学分野	1,300,000	独立行政法人 日本学術振興会
24	後縦靭帯骨化症における異所性骨化制御の分子機構の解明	松岡 佑嗣	整形外科科学分野	1,560,000	独立行政法人 日本学術振興会
25	尿中miRNAを用いた尿路上皮癌に対する免疫治療効果予測バイオマーカーの開発	平澤 陽介	泌尿器科学分野	1,430,000	独立行政法人 日本学術振興会
26	子宮筋腫と不妊症に対する産婦人科時間生物学の応用	小野 政徳	産科婦人科学分野	910,000	独立行政法人 日本学術振興会
27	母体糖尿病が児にもたらす神経発達障害の腸内細菌叢を用いた新規バイオマーカーの探索	佐々木 順子 (島順子)	糖尿病・代謝・内分泌内科学分野	260,000	独立行政法人 日本学術振興会
28	ドラッグリポジショニングによる眼部悪性腫瘍の新規治療法の開発	後藤 浩	眼科学分野	520,000	独立行政法人 日本学術振興会
29	人工知能とオミックス解析を用いたぶどう膜炎の新規診断法の開発	臼井 嘉彦	眼科学分野	910,000	独立行政法人 日本学術振興会
30	抗エストロゲン作用に着目した被膜拘縮予防法の開発	石川 孝	乳腺科学分野	1,300,000	独立行政法人 日本学術振興会
31	癒痕組織、老化皮膚への弾性繊維の誘導	井田 夕紀子	形成外科学分野	1,560,000	独立行政法人 日本学術振興会
32	顎骨周囲軟組織変性をターゲットにした新たなMRONJ発症関連因子の探索	河野 通秀	口腔外科学分野	520,000	独立行政法人 日本学術振興会
33	破骨細胞由来エクソソーム解析による薬剤関連顎骨壊死発症メカニズム解明への挑戦	近津 大地	口腔外科学分野	910,000	独立行政法人 日本学術振興会
34	低体力者下腿切断に対する脚運動モデルの効果検証ー切断肢運動循環と骨格筋代謝からー	長田 卓也	リハビリテーションセンター	390,000	独立行政法人 日本学術振興会
35	ヒト腸組織マイクロバイオームによる腸がん特異的菌種同定と新規がん発症機序の解明	祖父尼 淳	消化器内科学分野	1,560,000	独立行政法人 日本学術振興会
36	肺癌骨転移の克服を目指した血清エクソソームによる新しい治療法の開発	工藤 勇人	呼吸器・甲状腺外科 学分野	2,210,000	独立行政法人 日本学術振興会
37	睡眠衛生・睡眠の問題の評価のための包括的質問紙の開発と妥当性の検証	志村 哲祥	精神医学分野	1,170,000	独立行政法人 日本学術振興会
38	経皮経肝門脈塞栓術におけるNLEとエタノールによる塞栓後肝腫大効果の比較検討	安富(村木)美香	放射線医学分野	260,000	独立行政法人 日本学術振興会
39	院内死亡症例の死後CTによる死因診断法の確立	石田 尚利	放射線医学分野	910,000	独立行政法人 日本学術振興会
40	ヒト胃幹細胞の胃癌起源細胞への胃内細菌叢依存性転化機序の解析	新倉 量太	消化器内視鏡学 分野	1,560,000	独立行政法人 日本学術振興会
41	高圧力に着目した肺動脈性肺高血圧症病態形成におけるStanniocalcin1の役割	小神 真梨子	呼吸器内科学分野	1,300,000	独立行政法人 日本学術振興会
42	毛包の成長期を誘導する新規円形脱毛症の治療法の確立	原田 和俊	皮膚科学分野	1,560,000	独立行政法人 日本学術振興会

43	骨髄増殖性腫瘍幹細胞におけるCD44を中心とする接着因子発現・機能の調節機構解明	後藤 明彦	血液内科学分野	1,950,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
44	iPS細胞を活用した自己免疫疾患病態研究推進のためのスキーム策定	庄田 宏文	リウマチ・膠原病内科学分野	1,690,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
45	大動脈緊急症における診療体制・拠点施設の構築に向けた診療の質的評価	荻野 均	心臓血管外科学分野	2,860,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
46	ミトコンドリア機能を基軸に骨格筋が周期認知機能障害へ及ぼす影響の原因と防止対策	合谷木 徹	麻酔科学分野	1,040,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
47	ミトコンドリアバイオジェネシス活性化による敗血症関連脳症治療法確立への戦略的考究	内野 博之	麻酔科学分野	1,300,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
48	ラット椎間板変性モデルを用いたDUSP-1デリバリーによる病態制御の検討	遠藤 健司	整形外科科学分野	1,690,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
49	若年がん男児の妊孕性温存を目指す前臨床研究:精巣凍結保存・移植による生殖能回復	本橋 秀之	疾患モデル研究センター	780,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
50	超長寿命型人工膝関節開発のためのデラミネーション破壊抑制に関する研究	高橋 康仁	骨・関節バイオマテリアル研究寄附講座	1,820,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
51	社会情勢の流動性上昇期に起こる「子どもいじめ被害」とその心理学的・生物学的影響	榊屋 二郎	精神医学分野	1,040,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
52	STAMP阻害薬を使用する慢性骨髄性白血病患者における骨髄系遺伝子変異の解析	片桐 誠一郎	血液内科学分野	1,430,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
53	感染制御のための光スtentグラフトの研究開発	中井 資貴	放射線医学分野	2,340,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
54	CDC42異常症患者iPS細胞由来神経堤および神経細胞を用いた病態解明	中山 俊宏	小児科・思春期科学分野	1,170,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
55	インターロイキン27の腸管免疫制御による炎症抑制作用とインスリン抵抗性改善の研究	諏訪内 浩紹	糖尿病・代謝・内分泌内科学分野	1,820,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
56	セント再狭窄における炎症と糖タンパク質Fibulin-1の動的機能と役割	奥村 滋邦	救急・災害医学分野	1,690,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
57	TRPA1刺激による変形性関節症の病態制御機序の解明	澤地 恭昇	整形外科科学分野	1,170,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
58	吸着型血液浄化療法は終末糖化産物による血管内皮機能障害を改善できるか?	藤井 美樹	形成外科学分野	3,120,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
59	微生物由来メタボライトと外膜小胞の機能解析による口腔粘膜炎症機序の解明	長谷川 温	口腔外科学分野	1,560,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
60	実装研究を用いた国内でのACTの地域精神医療現場への実装の促進要因/阻害要因の検証	本屋敷 美奈	精神医学分野	2,340,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
61	人工股関節周囲組織反応(ALTR)の病態解明に関する基礎的および臨床的検討	石田 常仁	整形外科科学分野	2,470,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
62	4D-CTと呼吸機能検査を用いた放射線肺臓炎の定量化と呼吸機能変化予測	糸永 知広	放射線医学分野	650,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
63	胃がんにおける自律神経の分布が予後にもたらす影響について	岩崎 謙一	消化器・小児外科学分野	1,170,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
64	小細胞肺癌における代謝の変化と画像診断、放射線治療との関係	岡田 幸法	放射線医学	390,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
65	ジスルフィド消失TPO変異による先天性甲状腺機能低下とERストレス発生機序の究明	谷古宇 史芳	糖尿病・代謝・内分泌内科学分野	1,170,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
66	幹細胞を用いた妊娠高血圧症候群への病態アプローチ	小島 淳哉	産科婦人科学分野	2,080,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
67	ヒトOMIGTにおけるAIを用いた神経発達症新規バイオマーカーの検索	佐々木 徹	産科婦人科学分野	1,430,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
68	活性イオウ分子種に着目したがん化学療法誘発口腔粘膜炎の新規治療薬の開発	金子 児太郎	口腔外科学分野	1,950,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
69	集中治療室における超音波診断装置を用いた新たな呼吸理学療法評価の確立と効果検証	直井 俊祐	リハビリテーションセンター	390,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
70	ヤングケアラーのWell-beingに寄与する因子と睡眠を指標とするケア限界点の検討	小野 美樹	精神医学分野	1,040,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
71	マスク下で遊ぶ子どもたち 生物学的客観指標を用いて前頭野機能への影響を解明する	山田 ひかり	小児科・思春期科学分野	1,430,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
72	月経前不快気分障害発症における生物学的因子と心理社会的因子の関与	森下 千尋	精神医学分野	1,560,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
73	分散型自律組織(DAO)における医療画像情報の管理運用における実用モデルの研究	田島 祐	放射線医学分野	130,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
74	拡張能力を付与した胆管ドレナージ用スパイラル型チューブステントの開発	松波 幸寿	消化器内科学分野	1,430,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
75	近赤外光免疫療法(NIR-PIT)による肺扁平上皮癌への応用に向けた基礎研究	古本 秀行	呼吸器・甲状腺外科学分野	2,210,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
76	蛍光多重免疫染色を用いた免疫関連有害事象発症のリスクファクターの解明研究	雨宮 亮介	呼吸器・甲状腺外科学分野	1,690,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
77	幼若脳に対する全身麻酔薬の神経毒性と吸入酸素濃度との関連の解析	魚島 直美	麻酔科学分野	1,170,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
78	機械学習による眼内液の免疫活性因子を用いた眼疾患の分類予測	福津 直也	眼科学分野	1,560,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
79	RNAシークエンスを用いた眼内リンパ腫における網羅的遺伝子解析	朝蔭 正樹	眼科学分野	1,820,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
80	角膜上皮におけるPiezo分子の発現および機能解析	嶺崎 輝海	眼科学分野	1,820,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
81	シルクエラスチンを用いた新しい脂肪移植の方法の確立	鈴木 知佳	形成外科学分野	1,430,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
82	基質石灰化機構に着目した口腔癌の顎骨浸潤メカニズムの解明	藤居 泰行	口腔外科学分野	1,560,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
83	XRとSimilar Real Patient Modelを用いた新規歯科インプラント手術教育法の開発	池畑 直樹	口腔外科学分野	1,040,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
84	医療施設の水道シンク排水口管理における新たな感染対策指針の創出	中村 造	感染制御部	1,430,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
85	解剖学的2重束前十字靱帯再建術における移植腱と固定部間距離の骨孔拡大への影響	関 健	整形外科科学分野	1,170,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
86	大腸癌術前治療予測における人工知能を用いた新規予測因子と予測モデルの研究	笠原 健大	消化器・小児外科学分野	1,170,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会
87	UCHL1は平滑筋細胞の増殖と細胞周期の調節について	戴 易丹	生殖・加齢医学寄附講座	1,950,000	●・委	独立行政法人 日本学術振興会

88	メタボロミクスによる虚血性網膜症の予後予測マルチパネルの創出と代謝変化の解明	清水 広之	眼科学分野	2,470,000	補・委	独立行政法人 日本学術振興会
89	miRNA-mRNA統合解析によるヒト歯髄幹細胞の骨分化メカニズムの解明	佐藤 麻梨香	口腔外科学分野	1,170,000	補・委	独立行政法人 日本学術振興会
90	小児消化器内視鏡検査を安全に行うための適切な鎮静方法を決定する	堤 範音	小児科・思春期科学 分野	1,560,000	補・委	独立行政法人 日本学術振興会
91	炎症性腸疾患におけるRap1Aの発現調節機構の解明	一宮 匡	消化器内科学分野	1,430,000	補・委	独立行政法人 日本学術振興会
92	エイズ対策研究事業の企画と評価に関する研究	天野 景裕	臨床検査医学分野	3,250,000	補・委	厚生労働省
93	国内未承認エイズ治療薬等を用いた HIV 感染症治療薬及び HIV 感染症至適治療法の開発に係る応用研究	天野 景裕	臨床検査医学分野	100,000,000	補・委	厚生労働省
94	HIV感染者を含む血友病患者の高齢化に伴う新たな合併症に関する研究	木内 英	臨床検査医学分野	12,220,000	補・委	厚生労働省
95	エイズ予防指針に基づく対策の評価と推進のための研究	四本 美保子	臨床検査医学分野	10,270,000	補・委	厚生労働省
96	患者iPS細胞由来視床下部-下垂体オルガノイドを用いたPrader-Willi症候群の病態解明およびエピゲノム編集を用いた治療戦略の構築	奥野 博庸	小児科・思春期科学 分野	27,300,000	補・委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
97	ヒト微生物叢を介した腸管免疫応答から紐解くHIV感染者の非AIDS関連がんの発症機序	永田 尚義	消化器内視鏡学 分野	9,750,000	補・委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
98	急性網膜壊死の診療ガイドライン作成に向けたレジストリの構築とエビデンスの創出	臼井 嘉彦	眼科学分野	13,000,000	補・委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
99	Contemporary segmental pulmonary vein isolation utilized new fiber strategy	里見 和浩/高田 康之	循環器内科学分野	1,000,000	補・委	ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社メディカルカンパニー
100	血清プロテオミクス解析を用いた眼サルコイドーシスの病態解明および新規バイオマーカーの創出に向けた基盤的研究	臼井 嘉彦	眼科学分野	3,000,000	補・委	HOYA株式会社
101	既存のTKIに抵抗性・不耐容のCML-CPを対象としたAmoy Dx®Myeloid Blood Cancer Panelによる遺伝子解析	片桐 誠一郎	血液内科学分野	1,000,000	補・委	一般社団法人日本血液学会
102	Brugada症候群の不整脈基質とアブレーションに関する研究	里見 和浩	循環器内科学分野	1,000,000	補・委	ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Naito T, Tanaka R, Kuroiwa M, Fuse- Hamaoka S, Kime R, Kurosawa Y, Hamaoka T	健康増進スポーツ医学分野	Effect of Resistance Training on Skeletal Muscle Mass and Brown Adipose Tissue Activity	Adv Exp Med Biol . 2024;1463:335-340.	Original Article
2	Kime R, Endo T, Takagi S, Hamaoka T	健康増進スポーツ医学分野	Muscle Oxygen Dynamics Measured by NIRS	Adv Exp Med Biol . 2024;1463:347-351.	Original Article
3	Takagi S, Watanabe Y, Kime R	健康増進スポーツ医学分野	Regional differences in skeletal muscle O2 dynamics during body weight resistance exercise with slow movement and tonic force generation.	Adv Exp Med Biol . 2024;1463:365-370.	Original Article
4	Otsuki S	血液内科学分野	Comparison of IPSS-R and IPSS-M in newly diagnosed myelodysplastic neoplasms: a single-center study	RinshoKetueki.2025; 66(1):7-11	Original Article
5	Katagiri S	血液内科学分野	TP53 deletion is associated with poor survival of adult ALK- positive ALCL patients receiving CHOP-based chemotherapy	Annals of hematology.2025;104(3):1801- 1806.	Original Article
6	Okabe S	血液内科学分野	Characterization of Asciminib- Resistant Philadelphia Chromosome-Positive Cells.	World J Oncol. 2024 Apr;15(2):319-324.	Original Article
7	Okabe S	血液内科学分野	Effects of bortezomib on ponatinib-resistant Philadelphia chromosome-positive cells.	Leuk Lymphoma. 2024 May;65(5):696-699.	Letter
8	Okabe S	血液内科学分野	Targeting the insulin-like growth factor-1 receptor to overcome imatinib resistance in chronic myeloid leukemia.	Discov Oncol. 2024 Dec 24;15(1):835. オンライン	Original Article
9	Okabe S	血液内科学分野	Inhibition of glutaminolysis alone and in combination with HDAC inhibitor has anti-myeloma therapeutic effects	Cancer Drug Resist. 2024 Jun 24;7:25. オンライン	Original Article
10	Okabe S	血液内科学分野	Vitamin K2 Protects Against SARS-CoV-2 Envelope Protein- Induced Cytotoxicity in Chronic Myeloid Leukemia Cells and Enhances Imatinib Activity.	Int J Mol Sci. 2024 Nov 2;25(21):11800. オンライン	Original Article
11	Okabe S	血液内科学分野	Combination of an aurora kinase inhibitor and the ABL tyrosine kinase inhibitor asciminib against ABL inhibitor-resistant CML cells.	Med Oncol. 2024 May 7;41(6):142. オンライン	Original Article
12	Okabe S	血液内科学分野	Correspondence to: "Combination therapies with ponatinib and asciminib in a preclinical model of chronic myeloid leukemia blast crisis with compound mutations", Curik N et al. Leukemia. 2024; 38: 1415-1418.	Leukemia. 2025 Mar;39(3):775- 778.	Others
13	Sugai K	糖尿病・代謝・内分泌内科学分野	Predictive patterns of lower urinary tract symptoms and bacteriuria in adults with type 2 diabetes	Diabetology international 15(2):253-261, 2024	Original Article
14	Shikuma J	糖尿病・代謝・内分泌内科学分野	Anterior-Posterior Abdominal Diameter and Waist Circumference Have Comparable Predictive Ability for Visceral Fat Area	Obesity science & practice 11(1):e70047, 2025	Original Article
15	Suwanai H	糖尿病・代謝・内分泌内科学分野	Diabetes with COVID-19 was a significant risk factor for mortality, mechanical ventilation, and renal replacement therapies: A multicenter retrospective study in Japan	PLoS One 19;20(3):e0319801. doi: 10.1371/journal.pone.0319801, 2025	Review

16	Suzuki R	糖尿病・代謝・内分泌内科学分野	PIONEER REAL Japan: Baseline characteristics of a multicenter, prospective, real-world study of oral semaglutide in adults with type 2 diabetes in clinical practice in Japan	Journal of Diabetes Investigation 15(11):1566–1577, 2024	Original Article
17	Suzuki R	糖尿病・代謝・内分泌内科学分野	Medical database analysis of the association between kidney function and achievement of glycemic control in older Japanese adults with type 2 diabetes who started with oral antidiabetic drugs	Journal of Diabetes Investigation 15(8):1057–1067, 2024	Original Article
18	Sugai K	糖尿病・代謝・内分泌内科学分野	Pregnancy and delivery in an advanced cancer survivor with immune checkpoint inhibitor-induced type 1 diabetes: a case report	Endocrine 85(2):593–597, 2024	Case report
19	Iwasaki H	糖尿病・代謝・内分泌内科学分野	Disulfide Bonds of Thyroid Peroxidase Are Critical Elements for Subcellular Localization, Proteasome-Dependent Degradation, and Enzyme Activity.	Thyroid. 34(5):659–667, 2024	Original Article
20	Utsumi Y	人体病理学分野	High-grade salivary carcinomas: A current insight on diagnostic pathology and the key to clinical decision making	Seminars in Diagnostic Pathology 2024 Jul;41(4):197–206	Review
21	Kajiware M	人体病理学分野	The clinicopathological and prognostic significance of autonomic nerves in salivary duct carcinoma	Virchows Archiv 2024 Sep;485(3):439–452	Original Article
22	Matsushima R, Wakamatsu E, Machiyama H, Nishi W, Yoshida Y, Nishikawa T, Toyota H, Furuhashi M, Nishijima H, Takeuchi A, Suzuki M, Yokosuka T	免疫学分野	Imaging of biphasic signalosomes constructed by checkpoint receptor 2B4 in conventional and chimeric antigen receptor-T cells	iScience 2024 Dec 21;28(1):111669	Original Article
23	Sato T	呼吸器・甲状腺外科学分野	Intrathoracic Needle Migration from the Mediastinum into the Thoracic Cavity	Ann Thorac Cardiovasc Surg 30(1): 24–00039, 2024	Case report
24	Tachibana T	呼吸器・甲状腺外科学分野	Minimally invasive surgery for intradiaphragmatic bronchogenic cyst.	JTCVS Tech 25: 250–253, 2024 (オンライン)	Case report
25	Kajiware N	呼吸器・甲状腺外科学分野	Salivary metabolomic biomarkers for non-invasive lung cancer detection	Cancer Sci 115(5): 1695–1705, 2024	Original Article
26	Shigefuku S	呼吸器・甲状腺外科学分野	Prognostic significance of immunotherapy in postoperative recurrent non-small cell lung cancer without EGFR mutations or ALK rearrangements	J Thorac Dis 16(6): 3583–3592, 2024	Original Article
27	Kudo Y	呼吸器・甲状腺外科学分野	AI-driven Characterization of Solid Pulmonary Nodules on CT Imaging for Enhanced Malignancy Prediction in Small-sized Lung Adenocarcinoma	Clin Lung Cancer 25(5): 431–439, 2024	Original Article
28	Shimada Y	呼吸器・甲状腺外科学分野	Surgical outcomes of patients with locally advanced thymic epithelial tumor undergoing induction therapy followed by surgery: a narrative review	Mediastinum 8: 42, 2024 (オンライン)	Review
29	Shimada Y	呼吸器・甲状腺外科学分野	Current status of surgical treatment for lung cancer oligometastases	Curr Chall Thorac Surg 6: 28, 2024	Review
30	Shimada Y	呼吸器・甲状腺外科学分野	Oligo-Recurrence in Lung Cancer; The Most Curable State Among Advanced Disease?	Cancers (Basel) 16(23): 4086, 2024	Review
31	Nagase W	呼吸器・甲状腺外科学分野	Immunotherapy-extended survival in patients with recurrent pulmonary pleomorphic carcinoma following surgery	Eur J Surg Oncol 51(3): 109565, 2024	Original Article
32	Kudo Y	呼吸器・甲状腺外科学分野	Preoperative evaluation of visceral pleural invasion in peripheral lung cancer utilizing deep learning technology	Surg Today 55(1): 18–28, 2025	Original Article

33	Nagase W	呼吸器・甲状腺外科学分野	Pitfalls of Intraoperative Parathyroid Hormone Monitoring in Achieving Complete Surgical Resection of Ectopic Mediastinal Parathyroid Adenoma: A Case Report and Literature Review	Cureus 17(2): e78638, 2025 (オンライン)	Case report
34	Kawaguchi Y	呼吸器・甲状腺外科学分野	Predictive Role of Lymph Node Germinal Centers in Postoperative Recurrence of Non-Small Cell Lung Cancer Treated With Immune Checkpoint Inhibitor Therapy	Cureus 17(2): e79521, 2025 (オンライン)	Original Article
35	Murakami K	呼吸器・甲状腺外科学分野	Right middle lobe and S6 sleeve lobectomy for pulmonary mucopidermoid carcinoma originating from the bronchus intermedius: A case report	JTCVS Tech 25: 177-179, 2024 (オンライン)	Case report
36	Iwahashi T	心臓血管外科学分野	Clinical Characteristics and Early Surgical Outcomes of Aorto-esophageal Fistula	Ann Thorac Surg 2024 Oct 9:S0003-4975(24)00843-9.	Original Article
37	Kano M	心臓血管外科学分野	Association between Preoperative Neutrophil-lymphocyte Ratio and All-cause Mortality in Patients Treated with Thoracic Endovascular Aortic Repair for Degenerative Thoracic Aortic Aneurysm	Ann Vasc Surg 2025 Jan;110(Pt A):255-264.	Original Article
38	Nishibe T	心臓血管外科学分野	Predicting Short-Term Mortality after Endovascular Aortic Repair Using Machine Learning-Based Decision Tree Analysis	Ann Vasc Surg. 2024 Nov 22;111:170-175	Original Article
39	Nishibe T	心臓血管外科学分野	Reduced Muscle Mass and Muscle Quality in Patients with Intermittent Claudication due to Peripheral Artery Disease	Ann Vasc Surg. 2024 Aug;105:275-281.	Original Article
40	Aizawa H	神経学分野	Morphometric analysis of spinal motor neuron degeneration in sporadic amyotrophic lateral sclerosis	Journal of the neurological sciences・464・ 123177-123177・ 2024	Original Article
41	Hideyama T	神経学分野	Negative features of sporadic amyotrophic lateral sclerosis: Motor neurons of Onuf's nucleus survive in ADAR2-conditional knockout mice	Journal of the neurological sciences・463・ 123142-123142・ 2024	Original Article
42	Kikuno M	神経学分野	Overview and Future Direction of Embolic Stroke of Undetermined Source from the Insights of CHALLENGE ESUS/CS Registry	J Atheroscler Thromb 31, 2024. http://doi.org/10.5551/jat.RV2202	Review
43	Kikuno M	神経学分野	Atherogenic Dyslipidemia Is Critically Related to Aortic Complicated Lesions in Cryptogenic Stroke	J Atheroscler Thromb 31, 2024. http://doi.org/10.5551/jat.65289	Original Article
44	Tomino M, Maeda R, HaradaK, Motohashi S, Goyagi T	麻酔科学分野	Factors affecting time to postoperative recovery of consciousness in patients undergoing cardiac surgery with cardiopulmonary bypass: A retrospective study.	Cureus 17: e80227 doi:10.7759/cureus.80227,2025. IF: 1.4.	Original Article
45	Okada T, Goyagi T, Ohseto K	麻酔科学分野	Successful Treatment of Hip Osteoarthritis with Radiofrequency Ablation: A Report of Two Cases.	Cureus17: e80122. doi:10.7759/cureus.80122. 2025. IF: 1.4.	Original Article
46	Yidan D	産科・婦人科学分野	BMAL1 Regulates Collagen Production in the Myometrium and Leiomyomas	Reproductive sciences Apr;32(4):1115-11282025	Original Article
47	Ono M	産科・婦人科学分野	Influence of lifestyle and the circadian clock on reproduction	Reproductive Medicine and Biology Mar 12;24(1):e12641.2025	Original Article
48	Ono M	産科・婦人科学分野	Out-of-pocket fertility preservation expenses: data from a Japanese nationwide multicenter survey.	International journal of clinical oncology.Dec;29(12):1959-1966.2024	Original Article
49	Ono M	産科・婦人科学分野	Impact of daily breakfast intake on the outcomes of assisted reproductive technology procedures.	Nutrition (Burbank, Los Angeles County, Calif.Nov;127:112555.2024	Original Article
50	Ishii H	小児科・思春期科学分野	Case of early infant congenital bilateral axillary vein	BMC pediatrics 2025 19(1):611	Case report
51	Ishii H	小児科・思春期科学分野	A case of pulmonary embolism occurring with cardiopulmonary arrest after catheter ablation	Pediatric International 67(1):e15858	Case report

52	Ishii H	小児科・思春期科学分野	Double innominate vein in a case with double aortic arch: a case report	Journal of Cardiothoracic Surgery 2024.19(1):611	Case report
53	Nakano H	小児科・思春期科学分野	Clinical investigation of childhood-onset anti-myelin oligodendrocyte glycoprotein antibody-related diseases.	The Journal of Tokyo Medical University 2024 83(4): 424-430	Original Article
54	Kashiwagi Y	小児科・思春期科学分野	A case of chronic kidney disease with refractory periodic vomiting and hypertension in a pediatric patient.	CEN Case Rep.2024 14(1):103-107	Case report
55	Chida R	小児科・思春期科学分野	Role of Multi-Angle Chest Radiograph in Diagnosing Esophageal Aluminum Coin.	Clin Pediatr (Phila) 2024,Jul 63(7):889-892	Case report
56	Daida T	小児科・思春期科学分野	Neurodevelopment Is Dependent on Maternal Diet: Placenta and Brain Glucose Transporters GLUT1 and GLUT3	Nutrients 2024 16(14):2363	Review
57	Kikuno M	脳神経外科学分野	Overview and Future Direction of Embolic Stroke of Undetermined Source from the Insights of CHALLENGE ESUS/CS Registry Atherogenic Dyslipidemia Is Critically Related to Aortic Complicated Lesions in Cryptogenic Stroke Kikuno M, Ueno Y, Tateishi Y, Kuriki A, Doijiri R, Shimizu T, Takekawa H, Kanemaru K, Shimada Y, Yamaguchi E, Koga M, Kamiya Y, Ihara M, Tsujino A, Hirata K, Hasegawa Y, Aizawa H, Terashi H, Hattori N, Urabe T. J Atheroscler Thromb 2025; 32:804-822	Atheroscler Thromb 2024; 31:1641-1651	Review
58	Kikuno M	脳神経外科学分野	Atherogenic Dyslipidemia Is Critically Related to Aortic Complicated Lesions in Cryptogenic Stroke	J Atheroscler Thromb 2025; 32:804-822	Original Article
59	Saito Y	脳神経外科学分野	Cytocidal Effects of Interstitial Photodynamic Therapy Using Talaporfin Sodium and a Semiconductor Laser in a Rat Intracerebral Glioma Model	Biomedicines 12(9):2141. doi: 10.3390/biomedicines12092141. 2024 Sep 20 online	Original Article
60	Hashimoto T	脳神経外科学分野	Preoperative Embolization of Brain Tumors Using a Provocative Test: Evaluating the Safety and Efficacy of Embolization of Test-Positive Vessels.	Cureus 16: e72650, 2024	Original Article
61	Hashimoto T	脳神経外科学分野	Embosphere Size Selection and Dilution Rate in Preoperative Tumor Embolization of the External Carotid Artery System Using a Small-diameter Catheter.	Neurol Med Chir (Tokyo) 65: 1-8, 2025.	Original Article
62	Nagai K	脳神経外科学分野	Efficacy of interstitial photodynamic therapy using talaporfin sodium and a semiconductor laser for a mouse allograft glioma model.	Scientific reports 14(1)9137-9137, 2024.online	Original Article
63	Fukami S	脳神経外科学分野	Photodynamic therapy and tumor-treating fields therapy for newly diagnosed glioblastoma.	Front Oncol 15:1556669,2025, online	Original Article
64	Fukami S	脳神経外科学分野	Usefulness and pitfalls of neuroendoscopic tumor biopsy for intracranial malignant lymphoma.	Neurosurg Rev. 48(1):460.2025. online	Original Article
65	Nagai K	脳神経外科学分野	Next generation of minimally invasive therapies for glioma	The Academic 2024/9/17 online	Original Article
66	Sakamoto H	脳神経外科学分野	Volume Reduction Effect of Preoperative Embolization of Only the Feeding Arteries from the External Carotid Artery on Vestibular Schwannomas	World Neurosurg, 2024. http://dx.doi.org/10.1016/j.wneu.2024.11.063	Original Article

67	Matsunaga K	脳神経外科学分野	A Cerebral Embolism Caused by a Malignant Peripheral Nerve Sheath Tumor in a Patient with Neurofibromatosis Type 1	Intern Med 63(22), 2024. http://dx.doi.org/10.2169/internalmedicine.2996-23	Case report
68	Matsunaga K	脳神経外科学分野	Subarachnoid Hemorrhage after Resuscitation from Cardiopulmonary Arrest: A Comparison of Survivor and Dead Cases	J Neuroendovasc Ther 19, 2024. DOI:10.5797/jnet.oa.2024-0079	Original Article
69	Tanaka Y	脳神経外科学分野	Optimizing thrombectomy in medium vessel occlusion: Focus on vessel diameter	Interv Neuroradiol. 2024 Aug 8	Original Article
70	Tamada Y	精神医学分野	Comparison of depression with anxious distress and melancholic depression from the perspective of psychomotor disturbance	Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports 2024 Oct;3(4):e70022	Original Article
71	Satomi K	循環器内科	A case of short-coupled variant of Torsade de Pointes with bystander early repolarization in inferior leads.	J Cardiol Cases. 2022 Dec 28;27(4):148-151. doi: 10.1016/j.jccase.2022.12.004. eCollection 2023 Apr.	Case report
72	Satomi K	循環器内科	Second Micra leadless pacemaker implantation by using intracardiac echocardiography.	Pacing Clin Electrophysiol. 2024 Apr;47(4):554-557. doi: 10.1111/pace.14770. Epub 2023 Jun 28.	Case report
73	Satomi K	循環器内科	Central Systolic Blood Pressure as a Risk Factor for Accelerated Progression of Arterial Stiffness.	J Atheroscler Thromb. 2024 Feb 1;31(2):180-187.	Original Article
74	Satomi K	循環器内科	Diagnostic performance of pressure-bounded coronary flow reserve.	Cardiovasc Interv Ther. 2024 Apr;39(2):164-172. doi: 10.1007/s12928-024-00983-w. Epub 2024	Original Article
75	Satomi K	循環器内科	Feasibility of a novel atrial mechanical sensing method for leadless atrioventricular synchronous pacing.	J Cardiovasc Electrophysiol. 2024 Jun;35(6):1115-1120. doi: 10.1111/jce.16255. Epub 2024 Mar 27.	Original Article
76	Satomi.K	循環器内科	Pediatric hypertrophic cardiomyopathy caused by a novel TNNI3 variant.	Hum Genome Var. 2024 Mar 29;11(1):14. doi: 10.1038/s41439-024-00272-1.	Original Article
77	Satomi.K	循環器内科	Intermittent hypoxia by obstructive sleep apnea is significantly associated with electro-anatomical remodeling of the left atrium preceding structural remodeling in patients with atrial fibrillation.	CJC Open. 2024 Jun 16;6(9):1116-1120. doi: 10.1016/j.cjco.2024.06.004. eCollection 2024 Sep.	Original Article
78	Satomi.K	循環器内科	Clinical characteristics of female Fabry disease patients with hypertrophic cardiomyopathy with mid-ventricular obstruction.	Mol Genet Metab Rep. 2025 Feb 8;42:101196. doi: 10.1016/j.ymgmr.2025.101196. eCollection 2025 Mar.	Original Article
79	Satomi.K	循環器内科	Acute Coronary Syndrome in a 40-Year-Old Man with Triglyceride Deposit Cardiomyovasculopathy: A Case Report.	CJC Open. 2024 Jun 16;6(9):1116-1120. doi: 10.1016/j.cjco.2024.06.004. eCollection 2024 Sep.	Case report
80	Takara Y, Yunaiyama D, Yasutomi M, Arai T, Nara K, Nakamura S, Saguchi T, Nakai M, Saito K	放射線医学分野	Development of bacteriostatic central venous port using photobiomodulation: a comparative in vitro study.	Lasers in medical science 2024 Oct;39(1):259	Original Article
81	Ikegaya K	臨床検査医学科、薬剤部	Effects of switching to dolutegravir/lamivudine from tenofovir alafenamide fumarate/emtricitabine/dolutegravir or abacavir/lamivudine/dolutegravir on body weight and lipid profile in Japanese people living with HIV	Journal of Infection and Chemotherapy 2025 Feb;31(2):102544	Original Article
82	Watanabe Y	感染制御部	The effect of a patient empowerment hand hygiene programme: a single-centre study in Japan	Infect Prev Pract . 2025 Mar 5;7(2):100456. doi: 10.1016/j.infpip.2025.100456.	Others
83	Watanabe Y	感染制御部	A Case of Bacteremia and Septic Thrombophlebitis Caused by an Infusion Set Contaminated with Bacillus cereus	Intern Med. 2025 Mar 8. doi: 10.2169/internalmedicine.4918-24. Online ahead of print.	Case report
84	Watanabe Y	感染制御部	Pasteurella multocida Bacteremia Caused by Household Cat Bites	Intern Med . 2024 Dec 1;63(23):3263. doi: 10.2169/internalmedicine.3576-24. Epub 2024 Apr 9.	Others

85	Goto H	眼科学分野	Demographics, clinical features and prognosis of patients with primary malignant conjunctival tumors at a tertiary hospital in Japan.	Jpn J Ophthalmol. 69:316–325, 2025	Original Article
86	Sugawara R	眼科学分野	An approach to predict intraocular diseases by machine learning based on vitreous humor immune mediator profile.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2025 Mar 3;66(3):38. オンライン	Original Article
87	Asakage M	眼科学分野	Comprehensive microRNA analyses using vitreous humor of ocular sarcoidosis.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 263:501–526, 2025	Original Article
88	Goto H	眼科学分野	Clinical features and multimodal imaging of primary choroidal lymphoma.	Jpn J Ophthalmol. 68:722–730, 2024	Original Article
89	Tsubota K	眼科学分野	Changes in density of peripapillary and intrapapillary capillaries on OCT angiography in acute retinal necrosis treated by pharmacotherapy alone without surgery.	Ocul Immunol Inflamm. 32:1250–1256, 2024	Original Article
90	Narimatsu A	眼科学分野	Assessment of corneal graft outcomes in a murine model of endothelial keratoplasty.	J Clin Med. 2024 Aug 24;13(17):5010. オンライン	Original Article
91	Kawakami S	眼科学分野	Characteristics of patients who drop out of anti-vascular endothelial growth factor therapy for macular edema associated with branch retinal vein occlusion.	J Ophthalmol. 2024 Jul 5;2024:8336516. オンライン	Original Article
92	Komatsu H	眼科学分野	A pilot study to evaluate the usefulness of optical coherence tomography for staging iris pigmented lesions in cats.	Vet Sci. 2024 Jun 7;11(6):261. オンライン	Original Article
93	Miyaoka Y	腎臓内科学分野	Larger Degree of Renal Function Decline in Chronic Kidney Disease Is a Favorable Factor for the Attenuation of eGFR Slope Worsening by SGLT2 Inhibitors: A Retrospective Observational Study	Nephron 148(10): 667–677, 2024	Original Article
94	Tsuchiya T	腎臓内科学分野	Risk factors for septic shock in older patients with urinary tract infection	Clin Exp Nephrol Mar;29(3):368–375, 2025	Original Article
95	Tsuchiya T	腎臓内科学分野	Successful use of avacopan in a case of ANCA-associated vasculitis with treatment-resistant medium-sized vessel involvement	CEN Case Rep Published: 24 January 2025 (オンライン)	Case report
96	Shionoya K, Sofuni A, Mukai S, Tsuchiya T, Tanaka R, Tonozuka R, Yamamoto K, Nagai K, Matsunami Y, Kojima H, Minami H, Hirakawa N, Asano K, Yamaguchi Y, Hama K, Itoi T	臨床腫瘍科	Evaluating the Usefulness of the Blood Apolipoprotein A2 Isoform Index for Pancreatic Cancer Diagnosis	Cancers (Basel). 2025 Mar 22;17(7):1071. doi: 10.3390/cancers17071071. PMID: 40227633	Original Article
97	Shionoya K, Sofuni A, Mukai S, Yamauchi Y, Tsuchiya T, Tanaka R, Tonozuka R, Yamamoto K, Nagai K, Matsunami Y, Kojima H, Minami H, Hirakawa N, Zhan Q, Itoi T	臨床腫瘍科	Initial Use Experience of Durvalumab Plus Gemcitabine and Cisplatin for Advanced Biliary Tract Cancer in a Japanese Territory Center	Cancers (Basel). 2025 Jan 19;17(2):314. doi: 10.3390/cancers17020314. PMID: 39858096	Original Article
98	Tsuchiya T, Itoi T, Ishii K, Tanaka R, Tonozuka R, Mukai S, Nagai K, Yamamoto K, Matsunami Y, Kojima H, Minami H, Asano K, Sofuni A	臨床腫瘍科	Long-term outcomes of EUS-guided balloon-occluded gastrojejunostomy bypass for malignant gastric outlet obstruction (with video)	Gastrointest Endosc. 2025 Jan;101(1):195–199. doi: 10.1016/j.gie.2024.07.006. Epub 2024 Jul 23. PMID: 39053650	Original Article
99	Hirakawa N, Sofuni A, Tsuchiya T, Tonozuka R, Mukai S, Itoi T	臨床腫瘍科	Ultraslim catheter-type peroral cholangioscope-assisted endoscopic transpapillary gallbladder drainage for acute cholecystitis	Endoscopy. 2024 Dec;56(S 01):E1115–E1116. doi: 10.1055/a-2462–2162. Epub 2024 Dec 12. PMID: 39667403 Free PMC article	Original Article

100	Takeuchi S, Yoshimura A, Sofuni A, Ueda Y, Umezu T, Kuroda M, Sakeda A, Matsubayashi J, Nagao T, Bingo M, Inagaki N, Ohira T, Seike M, Ikeda N	臨床腫瘍科	A single-institution retrospective study of comprehensive genomic profiling tests based on C-CAT findings for advanced solid cancers	Jpn J Clin Oncol. 2024 Dec 7;54(12):1298-1305. doi: 10.1093/jco/hyae128. PMID: 39297618	Original Article
101	Mukai S, Itoi T, Sofuni A, Tsuchiya T, Tanaka R, Tonozuka R, Kojima H	臨床腫瘍科	Bridging endoscopic pancreatic stenting for disconnected pancreatic duct syndrome using a rendezvous technique from a walled-off necrosis cavity	Endoscopy. 2024 Dec;56(S 01):E29-E30. doi: 10.1055/a-2219-2672. Epub 2024 Jan 9. PMID: 38194989 Free PMC article	Original Article
102	Wada M, Matsunami Y, Mukai S, Sofuni A, Tsuchiya T, Nagakawa Y, Itoi T	臨床腫瘍科	Successful endoscopic ultrasound-guided fine-needle biopsy of a recurrent paraganglioma using a forward-viewing echoendoscope in a patient who had undergone the Whipple procedure	Endoscopy. 2024 Dec;56(S 01):E1120-E1121. doi: 10.1055/a-2467-3509. Epub 2024 Dec 17. PMID: 39689890	Original Article
103	Mukai S, Sofuni A, Tsuchiya T, Tanaka R, Tonozuka R, Yamamoto K, Matsunami Y, Nagai K, Kojima H, Minami H, Asano K, Itoi T	臨床腫瘍科	A novel puzzle ring replacement technique of a lumen-apposing metal stent with a double-pigtail plastic stent to prevent walled-off necrosis recurrence (with video)	DEN Open. 2024 Oct 14;5(1):e70020. doi: 10.1002/deo2.70020. eCollection 2025 Apr. PMID: 39403557	Original Article
104	Asano K, Matsunami Y, Itoi T, Tsuchiya T, Tanaka R, Tonozuka R, Mukai S, Kojima H, Ioyama E, Sofuni A	臨床腫瘍科	Overcoming difficulties in duodenoscope insertion due to scope deflection by mounting a splinting tube on a therapeutic video duodenoscope	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2024 Oct;31(10):e58-e59. doi: 10.1002/jhbp.12045. Epub 2024 Jul 19. PMID: 39031961	Original Article
105	Mukai S, Itoi T, Tsuchiya T, Tanaka R, Tonozuka R, Yamamoto K, Nagai K, Matsunami Y, Kojima H, Sofuni A	臨床腫瘍科	One-step tract dilation using a novel long balloon catheter during endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2024 Jul;31(7):e38-e40. doi: 10.1002/jhbp.12014. Epub 2024 May 31. PMID: 38822454	Original Article
106	Sofuni A, Takeuchi H, Sugimoto K, Itoi T, Miyazawa H	臨床腫瘍科	High-intensity focused ultrasound treatment for hepatocellular carcinoma	J Med Ultrason (2001). 2024 Jun 28. doi: 10.1007/s10396-024-01469-1. Online ahead of print. PMID: 38941033	Review
107	Mukai S, Itoi T, Tsuchiya T, Tanaka R, Tonozuka R, Yamamoto K, Nagai K, Matsunami Y, Kojima H, Sofuni A	臨床腫瘍科	A novel technique for one-step dilation followed by bile aspiration using an ultra-tapered bougie dilator with side holes to minimize bile leakage during EUS-guided hepaticogastrostomy	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2024 May;31(5):e17-e19. doi: 10.1002/jhbp.1413. Epub 2024 Jan 8. PMID: 38189635	Original Article
108	Kasuga I, Yokoe Y, Gamo S, Sugiyama T, Tokura M, Noguchi M, Okayama M, Nagakura R, Ohmori N, Tsuchiya T, Sofuni A, Itoi T, Ohtsubo O	臨床腫瘍科	Which is a real valuable screening tool for lung cancer and measure thoracic diseases, chest radiography or low-dose computed tomography?: A review on the current status of Japan and other countries	Medicine (Baltimore). 2024 May 10;103(19):e38161. doi: 10.1097/MD.00000000000038161. PMID: 38728453	Original Article
109	Kawaguchi M, Itonaga T, Mikami R, Sakeda A, Tsuchiya T, Sofuni A, Itoi T, Saito K	臨床腫瘍科	A Case of High-Dose-Rate Brachytherapy Under Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography (ERCP) for Intraductal Papillary Neoplasm of the Bile Duct	Cureus. 2024 Apr 14;16(4):e58254. doi: 10.7759/cureus.58254. eCollection 2024 Apr. PMID: 38745812	Original Article
110	Hirasawa Y	泌尿器科学分野	Comparison of the efficacy of enfortumab vedotin between patients with metastatic urothelial carcinoma who were treated with avelumab or pembrolizumab: real-world data from a multi-institutional study in Japan.	J Cancer Res Clin Oncol. 2024	Original Article
111	Shishido T	泌尿器科学分野	Comparison of Postoperative Stress Urinary Incontinence between Anteroposterior Dissection and Modified Gillig Method in Holmium Laser Enucleation of the Prostate.	Urol J. 2024	Original Article

112	Ishii-Takahashi A	精神医学分野	Efficacy of behavioural parent training on attachment security in children with attention deficit hyperactivity disorder: a randomised controlled trial.	Trials.2024 Oct 4;25(1):656https://doi.org/10.1186/s13063-024-08431-z	Original Article
113	Ueshima T	整形外科科学分野	Magnetic resonance imaging findings in patients with dropped head syndrome.	J Orthop Sci. 30(2):273-277, 2025	Original Article
114	Endo K	整形外科科学分野	保存療法後に予後不良であった首下がり症候群患者の頸部伸展筋の組織学的所見と画像所見(Case report: Histological and imaging findings of cervical extensor muscles in a patient with poor outcome of dropped head syndrome after conservative treatment)	JOS Case Reports3(3):136-140, 2024	Case report
115	Nagayama K	整形外科科学分野	Associations Among Changes in Body Composition, Activity, Muscle Recovery, and Obesity Following Total Knee Arthroplasty: A Retrospective Study.	Cureus 16(10):e72282, 2024	Original Article
116	Endo K	整形外科科学分野	Nuchal Ligament Reconstruction Surgery for Dropped Head Syndrome	JBJS Case Connect 14(4):e23, 2024	Case report
117	Tateiwa T	整形外科科学分野	Unveiling the dynamics of intraoperative contamination in total hip arthroplasty: the discrepancy between particulate and microbial contamination in surgical site infection risk.	Arthroplasty: 6(1):49, 2024	Original Article
118	Seki T	整形外科科学分野	Condoliase Injection Therapy for Lumbar Disc Herniation With Incomplete Motor Deficits in a Professional Footballer: A Case Report.	Cureus.:17(2):e79270, 2025	Case report
119	Tateiwa T	整形外科科学分野	Early Postoperative Change in Hip Rotation Angle and Factors Contributing to It for Patients Undergoing Total Hip Arthroplasty	Orthopedics 47(3): e114-e118, 2024	Original Article
120	Hatanaka T	整形外科科学分野	Clinical outcome of ulnar superficialis slip tendon resection for stenosing tenosynovitis of the finger with proximal interphalangeal joint fixed flexion deformity.	J Orthop Sci.30(2):295-301, 2025	Original Article
121	Teraoka S, Yamamoto H, Kikuchi S, Horimoto Y, Yamada K, Kaise H, Hosonaga M, Kawate T, Miyahara K, Ueda A, Asaoka M, Okazaki M, Uenaka N, Kawai S, Ishikawa T	乳腺科学分野	Plasma-free Amino Acid Profile is Beneficial for Breast Cancer Screening in Women With Dense Breasts	Clin Breast Cancer 2025 Feb;25(2):149-156.	Original Article
122	Horimoto Y, Jimbo H, Ishizuka Y, Nogami N, Kutomi G, Watanabe J	乳腺科学分野	Absolute lymphocyte count as a biomarker for best supportive care transition in metastatic breast cancer.	BMJ Support Palliat Care 2024	Original Article
123	Horimoto Y, Onagi H, Watanabe J, Hayashi T	乳腺科学分野	HER2 staining of breast cancer is reduced under the current protocol of Ventana PATHWAY anti-HER-2/neu (4B5).	Pathol Int 74:99-101, 2024	Original Article
124	Horimoto Y	乳腺科学分野	Comment on 'An increase in tumor-infiltrating lymphocytes after treatment is significantly associated with a poor response to neoadjuvant endocrine therapy for estrogen receptor-positive/HER2-negative breast cancers' by Fukui et al.	Breast Cancer 31:154, 2024	Letter

125	Horimoto Y, May Thinzar Hlain, Saeki H, Kaori Denda-Nagai, Katrin Ishii-Schrade, Fujihira H, Noji M, Shichino S, Saito M, Irimura T	乳腺科学分野	Glycosylation profiles of breast cancer cells may represent clonal variations of multiple organ metastases.	Clin Exp Metastasis 41:267-270, 2024	Original Article
126	Wu R, Horimoto Y, Oshi M, Benesch MGK, Khoury T, Takabe K, Ishikawa T	乳腺科学分野	Emerging measurements for tumor-infiltrating lymphocytes in breast cancer.	Jpn J Clin Oncol 2024 Jun 1;54(6):620-629.	Original Article
127	Koyama Y, Nakashima K, Orihara S, Tsunoda H, Kimura F, Uenaka N, Ban K, Michishita Y, Kanemaki Y, Kurihara A, Tawaraya K, Taguri M, Ishikawa T, Uematsu T	乳腺科学分野	Inter- and intra-observer variability of qualitative visual breast-composition assessment in mammography among Japanese physicians: a first multi-institutional observer performance study in Japan	Breast Cancer 2024 Jul;31(4):671-683.	Original Article
128	Uenaka N, Sato E, Horimoto Y, Kawai S, Asaoka M, Kaise H, Yamada K, Ishikawa T	乳腺科学分野	CD8-Positive T-Cells Are Key Immune Cells for Predicting the Therapeutic Effect of Neoadjuvant Chemotherapy in Triple-negative Breast Cancer	Anticancer Res 2024 Oct;44(10):4525-4536.	Original Article
129	Ishiwari M, Kono Y, Togashi Y, Kobayashi K, Kikuchi R, Kogami M, Suekawa A, Miyazawa Y, Abe S.	呼吸器内科学分野	Mini nutritional assessment short-form as a risk factor for mortality in patients with respiratory disease undergoing urgent hospitalization	BMC Geriatr. 2025 Feb 19;25(1):113.	Original Article
130	Kikuchi R, Watanabe Y, Okuma T, Nakamura H, Abe S.	呼吸器内科学分野	Outcome of immune checkpoint inhibitor treatment in non-small cell lung cancer patients with interstitial lung abnormalities: clinical utility of subcategorizing interstitial lung abnormalities	Cancer Immunol Immunother. 2024 Sep 5;73(11):211.	Original Article
131	Shioiri N, Kikuchi R, Matsumoto I, Furukawa K, Kobayashi K, Abe S.	呼吸器内科学分野	Effective treatment of steroid-resistant immune checkpoint inhibitor pneumonitis with mycophenolate mofetil	Respirol Case Rep. 2024 Apr 15;12(4):e01356.	Case report
132	Aoshiba N, Toriyama K, Yamashita S, Shioiri N, Iwata Y, Uruma T, Abe S, Tsushima K.	呼吸器内科学分野	Interstitial lung disease in a patient with anti-eIF2B antibodies-positive systemic sclerosis: A case report and literature review	Respir Med Case Rep. 2024 Nov 22;52:102141.	Case report
133	Abe S, Azuma A, Saito Y, Hayashi H, Kashiwada T, Tanaka T, Baba T, Sekine A, Kitamura H, Okuda R, Ikeda S, Ogura T.	呼吸器内科学分野	Direct hemoperfusion with polymyxin B immobilized fiber column (PMX) treatment for acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis: A prospective multicenter cohort study	Respir Investig. 2025 Jan;63(1):102-108.	Original Article
134	Hama K	消化器内科学分野	Noninvasive rapid urinary trypsinogen-2 dipstick test for early exclusion of post-endoscopic retrograde cholangiopancreatography pancreatitis within hours after endoscopic retrograde cholangiopancreatography: Clinical diagnosis and considerations	DEN Open 4(1): e336, 2024 (オンライン)	Original Article
135	Shionoya K	消化器内科学分野	Endoscopic ultrasound-guided biopsy using a three-prong asymmetry tip needle for pancreatic tumors and peridigestive tract lesions: Retrospective single-center study	J Hepatobiliary Pancreat Sci 31(4): 294-304, 2024	Original Article
136	Kakegawa T	消化器内科学分野	Favorable liver and skeletal muscle changes in patients with MASLD and T2DM receiving glucagon-like peptide-1 receptor agonist: A prospective cohort study	Medicine (Baltimore) 103(23): e38444, 2024	Original Article

137	Yamamoto K	消化器内科学分野	Multicenter comparative study on the usefulness of the optimal electrosurgical unit setting in endoscopic papillectomy for ampullary neoplasms (with video)	J Hepatobiliary Pancreat Sci 31(7): 503-511, 2024	Original Article
138	Sugimoto K	消化器内科学分野	US markers and necroinflammation, steatosis, and fibrosis in metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease: The iLEAD Study	Radiology 312(2): e233377, 2024	Original Article
139	Muramatsu T	消化器内科学分野	Rebleeding risk of acute hemorrhagic rectal ulcer: A multicenter retrospective study	Intern Med 63(18): 2481-2490, 2024	Original Article
140	Naito S	消化器内科学分野	Endoscopic program with a scoring system for surveillance of metachronous esophageal cell carcinoma for older patients considering risk factors after endoscopic resection	Esophagus 21(4): 530-538, 2024	Original Article
141	Naito S	消化器内科学分野	Micro-bacterial assessment of disposable gowns with a focus on green endoscopy in gastrointestinal endoscopy procedures: A Japanese pilot study for healthcare waste reduction	DEN Open 5(1): e70016, 2024 (オンライン)	Original Article
142	Mukai S	消化器内科学分野	A novel puzzle ring replacement technique of a lumen-apposing metal stent with a double-pigtail plastic stent to prevent walled-off necrosis recurrence (with video)	DEN Open 5(1): e70020, 2024 (オンライン)	Original Article
143	Matsumoto S	消化器内科学分野	Map-like redness development after eradication therapy for Helicobacter pylori infection: Prospective multicenter observational study	Helicobacter 29(6): e13146, 2024	Original Article
144	Kakegawa T	消化器内科学分野	Washout-parametric imaging with Sonazoid for enhanced differentiation of focal liver lesions	Ultrasonography 43(6): 457-468, 2024	Original Article
145	Sugimoto K	消化器内科学分野	Microwave ablation vs. single-needle radiofrequency ablation for the treatment of HCC up to 4 cm: A randomized-controlled trial	JHEP Rep 7(1): 101269, 2024 (オンライン)	Original Article
146	Tsuchiya T	消化器内科学分野	Long-term outcomes of EUS-guided balloon-occluded gastrojejunostomy bypass for malignant gastric outlet obstruction (with video)	Gastrointest Endosc 101(1): 195-199, 2025	Original Article
147	Shionoya K	消化器内科学分野	Initial use experience of Durvalumab plus Gemcitabine and Cisplatin for advanced biliary tract cancer in a Japanese territory center	Cancers (Basel) 17(2): 314, 2025	Original Article
148	Shionoya K	消化器内科学分野	Evaluating the usefulness of the blood apolipoprotein A2 isoform index for pancreatic cancer diagnosis	Cancers (Basel) 17(7):1071, 2025	Original Article
149	Sofuni A	消化器内科学分野	High-intensity focused ultrasound treatment for hepatocellular carcinoma	J Med Ultrason (2001). 2024 Jun 28. オンライン	Review
150	Mukai S	消化器内科学分野	Bridging endoscopic pancreatic stenting for disconnected pancreatic duct syndrome using a rendezvous technique from a walled-off necrosis cavity	Endoscopy 56(S 01): E29-E30, 2024	Case report
151	Muramatsu T	消化器内科学分野	Successful underwater endoscopic submucosal dissection with gel immersion for early gastric cancer in an upside-down stomach	Endoscopy 56(S 01): E258-E259, 2024	Case report
152	Mukai S	消化器内科学分野	A novel technique for one-step dilation followed by bile aspiration using an ultra-tapered bougie dilator with side holes to minimize bile leakage during EUS-guided hepaticogastrostomy	J Hepatobiliary Pancreat Sci 31(5): e17-e19, 2024	Case report
153	Shionoya K	消化器内科学分野	Drug-induced liver injury considered steroid-resistant and histologically diagnosed with vanishing bile duct syndrome	Intern Med 63(12): 1719-1723, 2024	Case report

154	Nagai K	消化器内科学分野	Intraprocedural hologram support with mixed-reality technique in endoscopic ultrasound-guided biliary drainage	Endoscopy 56(S 01): E550–E551, 2024	Case report
155	Fukuzawa M,	消化器内科学分野	Underwater endoscopic mucosal resection for circumferential adenoma of the ileocecal valve	Endoscopy 56(S 01): E711–E712, 2024	Case report
156	Mukai S	消化器内科学分野	One-step tract dilation using a novel long balloon catheter during endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy	J Hepatobiliary Pancreat Sci 31(7): e38–e40, 202	Case report
157	Hirakawa N	消化器内科学分野	A case of complete removal of stacked common bile duct stones by peroral direct digital cholangioscopy in a patient with surgically altered anatomy	J Hepatobiliary Pancreat Sc 31(9): e53–e55, 2024	Case report
158	Hama K	消化器内科学分野	Endoscopic ultrasound-guided drainage of bilomas in difficult-to-puncture locations using a sheath-assisted puncture technique	Endoscopy 56(S 01): E874–E875, 2024	Case report
159	Muramatsu T	消化器内科学分野	Low-pressure self-expandable metal stent insertion for obstructive colon cancer using water and gel immersion	Endoscopy 56(S 01): E888–E889, 2024	Case report
160	Asano K	消化器内科学分野	Overcoming difficulties in duodenoscope insertion due to scope deflection by mounting a splinting tube on a therapeutic video duodenoscope	J Hepatobiliary Pancreat Sci 31(10): e58–e59, 2024	Case report
161	Hama K	消化器内科学分野	Troubleshooting the migration of endoscopic ultrasound-guided pancreatic duct drainage stent to avoid repuncture	Dig Endosc 36(11): 1288–1289, 2024	Case report
162	Hirakawa N	消化器内科学分野	Successful biliary biopsy in a patient with surgically altered anatomy using a slim peroral cholangioscope via an endoscopic ultrasound-guided biliary drainage fistula	Endoscopy 56(S01): E1024–E1025, 2024	Case report
163	Hirakawa N	消化器内科学分野	Successful closure of a cholecystocolonic fistula due to cholecystitis using a clipping system	Endoscopy 56(S 01): E1050–E1051, 2024	Case report
164	Hirakawa N	消化器内科学分野	Ultraslim catheter-type peroral cholangioscope-assisted endoscopic transpapillary gallbladder drainage for acute cholecvstitis	Endoscopy 56(S 01): E1115–E1116, 2024	Case report
165	Muramatsu T	消化器内科学分野	Underwater endoscopic submucosal dissection using conical hood and gel immersion for esophageal squamous cell carcinoma with anastomotic stricture after total pharyngolaryngectomy	Endoscopy 56(S 01): E1117–E1119, 2024	Case report
166	Wada M	消化器内科学分野	Successful endoscopic ultrasound-guided fine-needle biopsy of a recurrent paraganglioma using a forward-viewing echoendoscope in a patient who had undergone the Whipple procedure	Endoscopy 56(S 01): E1120–E1121, 2024	Case report
167	Hama K	消化器内科学分野	Endoscopic ultrasound-guided drainage of bilomas in difficult-to-puncture locations using a sheath-assisted puncture technique	Endoscopy 57(2): 187–188, 2025	Case report
168	Hirakawa N	消化器内科学分野	Afferent loop syndrome following pancreatic head cancer surgery treated with metal stent placement using a short-type single-balloon enteroscope	Dig Endosc 37(2): 202–203, 2025	Case report
169	Hirakawa N	消化器内科学分野	Peroral digital cholangioscopy-assisted removal of a migrated biliary plastic stent using a novel small dilating balloon	Dig Endosc 37(3): 306–307, 2025	Case report
170	Hirakawa N	消化器内科学分野	Duodenal transmural perforation caused by a dislodged pigtail plastic stent in a patient with benign biliary stricture	J Hepatobiliary Pancreat Sci 32(3): e5–e6, 2025	Case report

171	Hama K	消化器内科学分野	Giant pancreatic stentolith after chronic transgastric pancreatic duct drainage	VideoGIE 10(6): 311-313, 2025 (オンライン)	Case report
172	Yamamoto K	消化器内科学分野	Editorial: Postendoscopic papillectomy recurrence of familial adenomatous polyposis-related ampullary adenomas: New or remnant lesions?	Dig Endosc 36(7): 843-845, 2024	Letter
173	Araki Y	形成外科学分野	Water-soluble dye staining of the flap nutrient artery and its perforator branch in cadavers embalmed using saturated salt solution and urea methods: does demonstration using a dye-stained cadaver increase a trainee's level of skill acquisition?	Anatomical Science International 2025/02	Original Article
174	Matsumura H	形成外科学分野	Application of cultured epidermal autograft, JACE®, improves survival rate in extensive burns: A propensity score matching study using Tokyo registry data	Int Wound J 2024/07	Original Article
175	Yamashita K	形成外科学分野	Step ladder VY advancement flap for lower eyelid reconstruction after resection eyelid malignant tumors.	International Ophthalmology 2024/06	Original Article
176	Matsumura H	形成外科学分野	3rd International Consensus Document; A proactive healing strategy for tackling biofilm-based surgical site complications: Wound Hygiene Surgical.	JOURNAL OF WOUND CARE 2024/05	Original Article
177	Aoki K	形成外科学分野	A Pilot Study to Evaluate the Minimally Invasive Burn Care for Small, Deep Partial-Thickness Burns of the Hands and Feet Using Enzyme Debridement and Autologous Skin Cell Spray	Journal of Clinical Medicine 2024/12	Original Article
178	Matsumura R	形成外科学分野	Tree-Dimensional Bioprinted Autologous Minimally Manipulated Homologous Adipose Tissue for Skin Defects After Wide Excision of Skin Cancer Provides Early Wound Closure and Good Esthetic Patient Satisfaction	Journal of Clinical Medicine 2025/03	Original Article

計178件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
～					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有
・ 手順書の主な内容 東京医科大学医学倫理審査委員会に関する規程、東京医科大学医学倫理審査委員会運用手順 東京医科大学における人を対象とする生命科学・医学系研究に係る標準業務手順書、 東京医科大学における研究に用いるヒト由来の試料およびその保管に係る手順書 (委員会の業務、委員会の組織、審査手数料、教育・研修、事務局に関する事項 研究責任者及び研究分担者の責務、研究に用いる試料の使用・保管に関する事項 等)	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有
・ 規定の主な内容 教職員が業務活動・研究活動等を行う上での利益相反(COI)を、適正に管理するために必要な事項を定め、法人運営、研究活動の公正性、信頼性、透明性を高めることを目的としている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年1回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年5回
・研修の主な内容 2024.04.22 演題:人を対象とする生命科学・医学系研究の基本事項 2024.07.29 演題:人を対象とする研究・疑問点と注意点 2024.10.28 演題:本学で発生した倫理指針不適合について 2025.02.10 演題:研究に関する宣言・法令・ガイドラインの最新情報 2025.03.10 演題:研究の手続きにおけるよくある勘違い	

(注)前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

【資料2】

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	222 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
赤羽 大悟	血液内科	主任教授	23年	
阿部 信二	呼吸器内科	主任教授	32年	
里見 和浩	循環器内科	主任教授	31年	
鈴木 亮	糖尿病・代謝・内分泌内科	主任教授	29年	
沢田 哲治	リウマチ・膠原病内科	主任教授	38年	
赫 寛雄	脳神経内科	主任教授	32年	
糸井 隆夫	消化器内科	主任教授	34年	
菅野 義彦	腎臓内科	主任教授	34年	
廣瀬 大輔	高齢診療科	講師	25年	
渡邊 秀裕	感染症科	教授	39年	
岩田 英里	内視鏡センター	臨床准教授	15年	
池田 徳彦	呼吸器外科・甲状腺外科	主任教授	39年	
島原 佑介	心臓血管外科	主任教授	24年	
永川 裕一	消化器外科・小児外科	主任教授	31年	
石川 孝	乳腺科	主任教授	38年	
原田 芳巳	総合診療科	准教授	37年	
天野 景裕	臨床検査医学科	教授	37年	
枘屋 二郎	メンタルヘルス科	主任教授	27年	
山中 岳	小児科・思春期科	主任教授	29年	
若林 美宏	眼科	教授	37年	
河野 道宏	脳神経外科	主任教授	38年	
塚原 清彰	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	主任教授	27年	
山本 謙吾	整形外科	主任教授	42年	
松村 一	形成外科	主任教授	38年	
柿沼 孝泰	麻酔科	臨床准教授	28年	
原田 和俊	皮膚科	主任教授	31年	
西 洋孝	産科・婦人科	主任教授	31年	
大野 芳正	泌尿器科	主任教授	35年	
齋藤 和博	放射線科	主任教授	35年	
長尾 俊孝	病理診断科	主任教授	34年	
上野 竜一	リハビリテーション科	臨床講師	35年	
本間 宙	救命救急センター	主任教授	32年	

(注) 1 医療法施行規則第六条

の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況(任意)

○放射線部

1.

- ・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(未破裂動脈瘤に対する血管内治療)
- ・研修の期間・実施回数 2024年5月13日 1回 45分
- ・研修の参加人数 診療放射線技師:4名 診断部看護師:9名 脳外科医師:2名

2.

- ・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(内頸動脈海綿静脈洞瘻に対する血管内治療)
- ・研修の期間・実施回数 2024年5月27日 1回 45分
- ・研修の参加人数 診療放射線技師:3名 診断部看護師:5名 脳外科医師:2名

3.

- ・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(脳底動脈瘤に対する血管内治療)
- ・研修の期間・実施回数 2024年7月1日 1回 45分
- ・研修の参加人数 診療放射線技師:3名 診断部看護師:7名 脳外科医師:2名

4.

- ・研修の主な内容 生命維持管理装置について
- ・研修の期間・実施回数 2024年7月25日 1回 50分
- ・研修の参加人数 診療放射線技師24名

5.

- ・研修の主な内容 生命維持管理装置について
- ・研修の期間・実施回数 2024年8月29日 1回 50分
- ・研修の参加人数 診療放射線技師22名 診断部看護師:3名

6.

- ・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(術前髄膜腫塞栓術)
- ・研修の期間・実施回数 2024年9月9日 1回 45分
- ・研修の参加人数 診療放射線技師:5名 診断部看護師:6名 脳外科医師:3名

7.

- ・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(内腸骨動脈塞栓術・TACEについて)
- ・研修の期間・実施回数 2024年9月10日 1回 50分
- ・研修の参加人数 診療放射線技師:1名 診断部看護師:1名 放射線科医師:7名

8.

- ・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(内腸骨動脈塞栓術について)
- ・研修の期間・実施回数 2024年9月24日 1回 45分
- ・研修の参加人数 診療放射線技師:1名 診断部看護師:1名 放射線科医師:5名

9.

- ・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(未破裂動脈瘤塞栓術について)
- ・研修の期間・実施回数 2024年9月30日 1回 50分
- ・研修の参加人数 診療放射線技師:3名 診断部看護師:6名 脳外科医師:1名

10.

- ・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(内腸骨動脈塞栓術・TACE)
- ・研修の期間・実施回数 2024年10月1日 1回 45分
- ・研修の参加人数 診療放射線技師:1名 診断部看護師:1名 放射線科医師:8名

11.

- ・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(内腸骨動脈塞栓術・TACE)
- ・研修の期間・実施回数 2024年10月8日 1回 45分
- ・研修の参加人数 診療放射線技師:1名 診断部看護師:1名 放射線科医師:7名

12.

・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(肝動脈塞栓術・膨大動脈リンパ節生検)

・研修の期間・実施回数 2024年10月15日 1回 40分

・研修の参加人数 診療放射線技師:1名 診断部看護師:1名 放射線科医師:8名

13.

・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(術前腫瘍塞栓術)

・研修の期間・実施回数 2024年10月21日 1回 40分

・研修の参加人数 診療放射線技師:4名 診断部看護師:5名 脳外科医師:3名

14.

・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(内腸骨動脈塞栓術)

・研修の期間・実施回数 2024年10月29日 1回 40分

・研修の参加人数 診療放射線技師:1名 診断部看護師:1名 放射線科医師:7名

15.

・研修の主な内容 生命維持管理装置について

・研修の期間・実施回数 2024年10月30日 1回 50分

・研修の参加人数 診療放射線技師8名

16.

・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(内腸骨動脈塞栓術・腋窩腫瘍塞栓術)

・研修の期間・実施回数 2024年11月6日 1回 40分

・研修の参加人数 診療放射線技師:1名 診断部看護師:1名 放射線科医師:5名

17.

・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(AVFに対する頸動脈塞栓術)

・研修の期間・実施回数 2024年11月11日 1回 40分

・研修の参加人数 診療放射線技師:5名 診断部看護師:5名 脳外科医師:3名

18.

・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(Acom動脈瘤に対するWEBを用いた塞栓術)

・研修の期間・実施回数 2024年11月25日 1回 40分

・研修の参加人数 診療放射線技師:5名 診断部看護師:8名 脳外科医師:3名

19.

・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(内腸骨動脈塞栓術)

・研修の期間・実施回数 2024年11月26日 1回 40分

・研修の参加人数 診療放射線技師:1名 診断部看護師:1名 放射線科医師:7名

20.

・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(内腸骨動脈塞栓術)

・研修の期間・実施回数 2024年12月3日 1回 40分

・研修の参加人数 診療放射線技師:1名 診断部看護師:1名 放射線科医師:5名

21.

・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(WEBを用いた動脈瘤塞栓術)

・研修の期間・実施回数 2024年12月7日 1回 40分

・研修の参加人数 診療放射線技師:1名 診断部看護師:6名 脳外科医師:1名

22.

・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(UAE・TAME)

・研修の期間・実施回数 2024年12月10日 1回 40分

・研修の参加人数 診療放射線技師:1名 診断部看護師:1名 放射線科医師:5名

23.

・研修の主な内容 生命維持管理装置について

・研修の期間・実施回数 2024年12月10日 1回 50分

・研修の参加人数 診療放射線技師11名

24.

・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス

・研修の期間・実施回数 2024年12月16日 1回 40分

・研修の参加人数 診療放射線技師:4名 診断部看護師:9名 脳外科医師:3名

25.

・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(内腸骨動脈塞栓術)

・研修の期間・実施回数 2024年12月17日 1回 40分

・研修の参加人数 診療放射線技師:1名 診断部看護師:1名 放射線科医師:7名

26.

・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(PSE)

・研修の期間・実施回数 2024年12月24日 1回 40分

・研修の参加人数 診療放射線技師:1名 診断部看護師:1名 放射線科医師:5名

27.

・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス

・研修の期間・実施回数 2025年1月6日 1回 40分

・研修の参加人数 診療放射線技師:4名 診断部看護師:9名 脳外科医師:2名

28.

・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(脊椎生検)

・研修の期間・実施回数 2025年1月7日 1回 40分

・研修の参加人数 診療放射線技師:1名 診断部看護師:1名 放射線科医師:6名

29.

・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(TACE・気管支動脈塞栓術)

・研修の期間・実施回数 2025年1月14日 1回 40分

・研修の参加人数 診療放射線技師:1名 診断部看護師:1名 放射線科医師:7名

30.

・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(未破裂動脈瘤塞栓術について)

・研修の期間・実施回数 2025年1月20日 1回 40分

・研修の参加人数 診療放射線技師:6名 診断部看護師:10名 脳外科医師:2名

31.

- ・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(UAE・内腸骨動脈塞栓術)
- ・研修の期間・実施回数 2025年1月21日 1回 40分
- ・研修の参加人数 診療放射線技師:1名 診断部看護師:1名 放射線科医師:6名

32.

- ・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(UAE・内腸骨動脈塞栓術・腎動脈塞栓術)
- ・研修の期間・実施回数 2025年1月28日 1回 40分
- ・研修の参加人数 診療放射線技師:1名 診断部看護師:1名 放射線科医師:7名

33.

- ・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(グロームス腫瘍に対する塞栓術について)
- ・研修の期間・実施回数 2025年2月3日 1回 40分
- ・研修の参加人数 診療放射線技師:4名 診断部看護師:6名 脳外科医師:3名

34.

- ・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(TACE・脊椎生検)
- ・研修の期間・実施回数 2025年2月5日 1回 40分
- ・研修の参加人数 診療放射線技師:1名 診断部看護師:1名 放射線科医師:6名

35.

- ・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(TACE・BRTO)
- ・研修の期間・実施回数 2025年2月12日 1回 40分
- ・研修の参加人数 診療放射線技師:1名 診断部看護師:1名 放射線科医師:7名

36.

- ・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(頭蓋内腫瘍塞栓について)
- ・研修の期間・実施回数 2025年2月17日 1回 40分
- ・研修の参加人数 診療放射線技師:4名 診断部看護師:8名 脳外科医師:3名

37.

・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(肺静脈血栓回収術について)

・研修の期間・実施回数 2025年2月18日 1回 40分

・研修の参加人数 診療放射線技師:1名 診断部看護師:2名 放射線科医師:6名

38.

・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(エンドリークに対する塞栓術)

・研修の期間・実施回数 2025年2月25日 1回 40分

・研修の参加人数 診療放射線技師:1名 診断部看護師:1名 放射線科医師:6名

39.

・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(頭蓋内腫瘍塞栓について)

・研修の期間・実施回数 2025年3月3日 1回 40分

・研修の参加人数 診療放射線技師:5名 診断部看護師:8名 脳外科医師:2名

40.

・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(エンドリークに対する塞栓術・TAME)

・研修の期間・実施回数 2025年3月4日 1回 40分

・研修の参加人数 診療放射線技師:1名 診断部看護師:1名 放射線科医師:6名

41.

・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(TAME)

・研修の期間・実施回数 2025年3月11日 1回 40分

・研修の参加人数 診療放射線技師:1名 診断部看護師:2名 放射線科医師:6名

42.

・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(FD・AVFに対するTAE)

・研修の期間・実施回数 2025年3月24日 1回 40分

・研修の参加人数 診療放射線技師:6名 診断部看護師:7名 脳外科医師:4名

43.

・研修の主な内容 IVR術前カンファレンス(BRTO)

・研修の期間・実施回数 2025年3月25日 1回 40分

・研修の参加人数 診療放射線技師:1名 診断部看護師:1名 放射線科医師:6名

44.

・研修の主な内容 放射線医療機器安全使用のための定期研修(キャノンCT機器)

・研修の期間・実施回数 2024年5月15日 1回 60分

・研修の参加人数 診療放射線技師:10名

45.

・研修の主な内容 非イオン性ヨード造影剤とアナフィラキシーについて

・研修の期間・実施回数 2024年5月29日 1回 60分

・研修の参加人数 診療放射線技師:24名

46.

・研修の主な内容 バイアルタンク型インジェクターの使用について

・研修の期間・実施回数 2024年6月5日 1回 60分

・研修の参加人数 診療放射線技師:25名

47.

・研修の主な内容 ヨード造影剤の組成、副作用の仕組みについて

・研修の期間・実施回数 2024年6月19日 1回 60分

・研修の参加人数 診療放射線技師:25名

48.

・研修の主な内容 放射線医療機器安全使用のための定期研修(GE機器)

・研修の期間・実施回数 2024年6月24日 1回 60分

・研修の参加人数 診療放射線技師:19名

49

・研修の主な内容 ヨード造影剤のアナフィラキシーの対応について

・研修の期間・実施回数 2024年7月10日 1回 60分

・研修の参加人数 診療放射線技師:24名

50.

・研修の主な内容 造影CT検査における至適造影剤量・濃度について

・研修の期間・実施回数 2024年8月7日 1回 60分

・研修の参加人数 診療放射線技師:25名

51.

・研修の主な内容 MRIガドリニウム造影剤の組成、副作用について

・研修の期間・実施回数 2024年8月27日 1回 60分

・研修の参加人数 診療放射線技師:20名

52.

・研修の主な内容 ヨード造影剤による造影剤腎症の仕組みについて

・研修の期間・実施回数 2024年9月18日 1回 60分

・研修の参加人数 診療放射線技師:18名

53.

・研修の主な内容 放射線医療機器安全使用のための定期研修(キャノンCT機器)

・研修の期間・実施回数 2024年11月13日 1回 60分

・研修の参加人数 診療放射線技師:10名

54.

・研修の主な内容 当院設置CT装置の安全に関わる使用方法について(GE)

・研修の期間・実施回数 2024年11月20日 1回 60分

・研修の参加人数 診療放射線技師:23名

55.

・研修の主な内容 ヨード造影剤安全管理に対する他院の取り組みについて

・研修の期間・実施回数 2024年12月11日 1回 60分

・研修の参加人数 診療放射線技師:20名

56.

- ・研修の主な内容 タンク型インジェクターを用いたCT検査室運用の工夫について
- ・研修の期間・実施回数 2024年12月18日 1回 60分
- ・研修の参加人数 診療放射線技師:19名

57.

- ・研修の主な内容 タンク型インジェクターを用いた新たな造影法の検討について
- ・研修の期間・実施回数 2025年1月27日 1回 60分
- ・研修の参加人数 診療放射線技師:15名

58.

- ・研修の主な内容 CT装置の最新技術について、RSNA報告を含めて(GE)
- ・研修の期間・実施回数 2025年2月7日 1回 60分
- ・研修の参加人数 診療放射線技師:28名

59.

- ・研修の主な内容 CT装置の最新技術について、RSNA報告を含めて(キャノン)
- ・研修の期間・実施回数 2025年2月12日 1回 30分
- ・研修の参加人数 診療放射線技師:28名

60.

- ・研修の主な内容 当院設置CT装置の安全に関わる使用方法について(キャノン)
- ・研修の期間・実施回数 2025年2月12日 1回 30分
- ・研修の参加人数 診療放射線技師:28名

61.

- ・研修の主な内容 造影剤血管外漏出の対応と頻度減少ための対策について
- ・研修の期間・実施回数 2025年2月22日 1回 60分
- ・研修の参加人数 診療放射線技師:22名

62.

・研修の主な内容 マルチペーシェント用インジェクター導入によるCT検査室の革新について

・研修の期間・実施回数 2025年2月28日 1回 80分

・研修の参加人数 診療放射線技師:9名

63.

・研修の主な内容 ヨード造影剤の安全使用にかかわるガイドラインについて

・研修の期間・実施回数 2025年3月5日 1回 60分

・研修の参加人数 診療放射線技師:18名

64.

・研修の主な内容 造影剤アナフィラキシーに対する多職種シミュレーションについて

・研修の期間・実施回数 2025年2月28日 1回 80分

・研修の参加人数 診療放射線技師:35名 診断部看護師:25名 放射線科医師:5名 診療看護師3名

65.

・研修の主な内容 放射線医療機器安全使用のための定期研修(MRI機器)

・研修の期間・実施回数 2024年6月12日 1回 60分

・研修の参加人数 診療放射線技師:14名 書記:4名

66

・研修の主な内容:高エネルギー放射線発生装置の安全性および使用方法に関する研修(前期)

・研修の期間・実施回数:2024年5月18日～2024年5月20日 2回

・研修の参加人数:放射線技師10名 医学物理士2名 看護師6名

67

・研修の主な内容:放射線照射装置の安全性および使用方法に関する研修(前期)

・研修の期間・実施回数:2024年6月15日～2024年7月20日 3回

・研修の参加人数:放射線技師10名 医学物理士2名 看護師6名

68

・研修の主な内容:放射線療法中の栄養管理について

・研修の期間・実施回数:2024年7月6日 1回

・研修の参加人数:放射線技師6名 看護師5名

69

・研修の主な内容:高エネルギー放射線発生装置の安全性および使用方法に関する研修(後期)

・研修の期間・実施回数:2024年11月2日～2024年11月11日 2回

・研修の参加人数:放射線技師10名 医学物理士2名 看護師6名

70

・研修の主な内容:放射線照射装置の安全性および使用方法に関する研修(後期)

・研修の期間・実施回数:2024年12月7日～2024年12月13日 2回

・研修の参加人数:放射線技師10名 医学物理士2名 看護師6名

71

・研修の主な内容:除細動器の取り扱いについて

・研修の期間・実施回数:2025年3月15日 1回

・研修の参加人数:放射線技師7名 看護師3名

○看護部

1.集中ケア

1)看護専門領域研修「集中ケア」全5回

・研修の主な内容:クリティカルケアシリーズ1(生体侵襲を学ぼう)、呼吸ケアシリーズ1「basicコース」気道管理が必要な患者のアセスメント看護ケア、呼吸ケアシリーズ2「アドバンスコース」人工呼吸器装着患者のアセスメントと看護、人工呼吸器装着患者の看護(総論)(病棟編)、心電図の基礎講座(心電図波形を読む)

・研修の期間:2024年6月12日、7月4日、8月1日、9月6日、10月4日

・実施回数:5回

・研修の参加人数:計76名

2.救急看護

1)看護専門領域研修「救急看護」全15回

・研修の主な内容:臨床推論①、臨床推論②、患者さんの異常に気付くフィジカルアセスメント(気道・呼吸編)、病棟スタッフの為の人工呼吸器管理(機械編)、病棟スタッフの為の人工呼吸器管理(看護編)、リーダーの為の急変対応1、急変場面でのOJT「教え方」、患者さんの異常に気付くフィジカルアセスメント(循環編)、院内急変2222とRRSのつながり、The DMAT、患者さんの異常に気付くフィジカルアセスメント(意識編)、災害対応基本の「キ」地震からテロ・銃撃・爆発まで、2222事例と対応の現状2024、スタッフの為の急変対応、新人の為のフィジカルアセスメント総集編

・研修の期間:2024年5月10日、5月14日、6月10日、6月19日、6月20日、7月8日、8月8日、8月20日、9月12日、10月29日、11月5日、12月10日、12月11日

2025年2月18日、3月4日

・実施回数:15回

・研修の参加人数:143名

2)新人看護師研修「急変時の看護」

・研修の主な内容:一次救命処置の演習

(事例をグループ毎に実践、デブリーフィング実施)

講義(2次救命処置の基本、救急カートについて)

・研修の期間:2024年10月28日午前・午後、10月29日午前・午後、10月30日午前・午後

・実施回数:6回

・研修の参加人数:計162名

3.がん看護

1)看護専門領域研修「がん看護」全10回

・研修の主な内容:がんとがん治療に関連した症状へのケアー痛み1ー、がんとがん治療に関連した症状へのケアー痛み2ー、がんとがん治療に関連した症状へのケアー便秘・下痢ー、がんとがん治療に関連した症状へのケアー悪心・嘔吐ー、がんとがん治療に関連した症状へのケアー呼吸困難感ー、がんとがん

治療に関連した症状へのケアー倦怠感・食思不振ー、がん患者のライフサイクルと意思決定への支援、がんとがん治療に関連した症状へのケアーしびれー、がんとがん治療に関連した症状へのケアー皮膚障害

・むくみー、がんとがん治療に関連した症状へのケアー脱毛・爪障害・HFS・皮疹ー

・研修の期間:2024年5月17日、6月12日、7月10日、8月9日、9月13日、10月11日、10月30日、11月14日、12月6日、2025年1月8日

・実施回数:10回

・研修の参加人数:149名

2)ラダーレベルⅡ研修「がん看護」

・研修の主な内容:放射線の基礎知識、放射線皮膚炎のアセスメントとケア免疫チェックポイント阻害薬について、緩和医療について、オピオイドに関してなど

・研修の期間:2024年7月4日

・実施回数:1回

・研修の参加人数:16名

4.慢性心不全看護

1)看護専門領域研修「慢性心不全看護」全4回

・研修の主な内容:心不全ステージ分類ステージAの療養支援のポイント、心不全ステージ分類ステージBの療養支援のポイント、心不全ステージ分類ステージCの療養支援のポイント、心不全ステージ分類ステージDの療養支援のポイント

・研修の期間:2024年6月14日、8月23日、10月25日、2025年1月24日

・実施回数:4回

・研修の参加人数:40名

5.皮膚・排泄ケア

1)看護専門領域研修「皮膚・排泄ケア」全3回

・研修の主な内容:ストーマケアの基本、ストーマケアの実際、ハイリスク患者のスキンケア

・研修の期間:2024年6月7日、9月27日、11月1日

- ・実施回数:3回

- ・研修の参加人数:24名

6.糖尿病看護

1)看護専門領域研修「糖尿病看護シリーズ」全5回

- ・研修の主な内容:安全にインスリン療法を実施しよう、周手術期の糖尿病看護、糖尿病患者のための食事療法、透析予防のための患者指導、糖尿病患者のフットケア

- ・研修の期間:2024年度7月1日、8月21日、9月19日、11月28日、2025年1月10日

- ・実施回数:5回

- ・研修の参加人数:39名

7.摂食・嚥下障害看護

1)看護専門領域研修「摂食・嚥下障害看護シリーズ」全5回

- ・研修の主な内容:看護師が行う口腔ケア、看護に必要な嚥下の基礎知識、嚥下機能へ影響する要因、嚥下障害のフィジカルアセスメント、看護に活かせる栄養管理と看護師が行う嚥下訓練

- ・研修の期間:2024年7月23日、9月10日、10月24日、11月29日、12月18日

- ・実施回数:5回

- ・研修の参加人数:35名

8.小児救急看護

1)看護専門領域研修「小児救急看護」全2回

- ・研修の主な内容:子どもとの関わり方、小児虐待について

- ・研修の期間:2024年9月9日、2025年2月12日

- ・実施回数:2回

- ・研修の参加人数:16名

9.認知症看護

1)看護専門領域研修「認知症看護」全1回

- ・研修の主な内容:やってみよう！ユマニチュード(認知症ケア)

- ・研修の期間:2025年1月21日

- ・実施回数:1回

- ・研修の参加人数:10名

2) 新人看護師研修「パーソンセンタードケアで進める認知症看護Basic」

- ・研修の主な内容:認知症高齢者の現状・中核症状の理解と基本的なアセスメントとパーソンセンタードケア

- ・研修の期間:2025年1月31日、2月7日、2月14日

- ・実施回数:3回

- ・研修の参加人数:計157名

10.褥瘡ケア

1) 看護専門領域研修「褥瘡ケア研修シリーズ」全6回

- ・研修の主な内容:皮膚の構造から考える褥瘡の基礎知識、健康な皮膚を目指そう！－ナースが知っておきたいスキンケア、皆で防ごう！MDRPUとスキンケア、褥瘡の評価をしてみよう！DESIGN-R2020、褥瘡を早く治そう！効果的な褥瘡治療とテクニック、低栄養は怖い！褥瘡予防につながる栄養管理

- ・研修の期間:2024年5月15日、6月28日、7月12日、8月22日、11月8日、12月12日

- ・実施回数:6回

- ・研修の参加人数:74名

11.感染管理

1) 看護専門領域研修「感染管理シリーズ」全3回

- ・研修の主な内容:感染症診療時の看護師の役割、微生物検査と抗菌薬の使用、医療関連感染対策

- ・研修の期間:2024年5月8日、7月5日、11月22日

- ・実施回数:3回

- ・研修の参加人数:20名

12.新生児集中ケア

1) 看護専門領域研修「新生児集中ケアシリーズ」全3回

- ・研修の主な内容:新生児の痛みのケアを学ぼう!、新生児の呼吸の観察と挿管介助を学ぼう!、低体温療法中のケアを学ぼう!

- ・研修の期間:2024年7月11日、8月5日、9月2日

- ・実施回数:3回

- ・研修の参加人数:39名

13.不妊症看護

1) 看護専門領域研修「不妊症看護」全1回

- ・研修の主な内容:AYA世代の生殖補助医療を考える

- ・研修の期間:2024年10月10日

- ・実施回数:1回

- ・研修の参加人数:4名

14. 家族看護

1) 看護専門領域研修「家族支援」全2回

- ・研修の主な内容:家族を捉える視点を身につけよう、ナラティブで捉える患者・家族

- ・研修の期間:2024年5月23日、12月20日

- ・実施回数:2回

- ・研修の参加人数:35名

15. 臨床倫理

1) 看護専門領域研修「臨床倫理」全3回

- ・研修の主な内容:ゼロから始めるACP、エンド・オブ・ライフ・ケアの基本を学ぼう!、クリティカルケアにおける代理意思決定支援

- ・研修の期間:2024年7月18日、10月9日、11月7日

- ・実施回数:3回

- ・研修の参加人数:39名

○中央検査部

1.研修の主な内容:アラート症例検討会

・研修の期間:2024年1月16日～11月12日

・実施回数:11 回

・研修の参加人数:23 名

2.研修の主な内容:細胞診症例検討会

・研修の期間:2024年1月24日～7月25日

・実施回数:7 回

・研修の参加人数:7 名

○薬剤部

・研修の主な内容:臨床感染症セミナー

・研修の期間・実施回数:2024年4月24日、5月15日、6月19日、7月10日、10月11日、11月22日、2025年2月7日、計7回

・研修の参加人数:53人(4月24日)、50人(5月15日)、31人(6月19日)、3人(7月10日)、48人(10月11日)、48人(11月22日)、35人(2月7日)

② 業務の管理に関する研修の実施状況(任意)

○放射線部

1.

・研修の主な内容 透視フットスイッチ使用に関する注意点

・研修の期間・実施回数 2024年5月10日 1回 30分

・研修の参加人数 診療放射線技師:6名

2.

・研修の主な内容 1階一般撮影装置の新規導入時取扱い説明

・研修の期間・実施回数 2024年9月19日～9月20日 2回 30分

・研修の参加人数 診療放射線技師:33名

3.

・研修の主な内容 新規設置IVUSの取扱い説明

・研修の期間・実施回数 2024年11月18日～11月21日 3回 30分

・研修の参加人数 診療放射線技師:10名

4.

・研修の主な内容 内視鏡治療室X線透視装置の新規導入時取扱い説明

・研修の期間・実施回数 2025年2月27日～2月28日 2回 40分

・研修の参加人数 診療放射線技師:8名 消化器内科科医師:12名

5.

・研修の主な内容 血管室1X線機器バージョンアップの説明

・研修の期間・実施回数 2025年3月17日～3月18日 2回 40分

・研修の参加人数 診療放射線技師:20名 放射線科医師:7名

6

・研修の主な内容 4階一般X線撮影室CALNEO PU2の取扱い説明

・研修の期間・実施回数 2025年3月28日 1回 30分

・研修の参加人数 診療放射線技師:24名

○看護部

1.看護管理

1)ラダーレベル研修「看護管理①」「看護管理②」「看護管理③」「看護管理④」

・研修の主な内容:①メンバーシップ、②リーダーシップ、③目標管理、④自部署の問題解決

・研修の期間:①2024年9月7日、9月12日、10月4日、②2024年10月5日、10月21日、③2024年6月7日、

④2024年5月10日・9月19日・2025年2月13日

・実施回数:9回

・研修の参加人数:119名

2)ラダーレベル研修「安全①」「安全②」「安全③」

・研修の主な内容:①KYT、②要因分析、③要因分析と再発防止対策

・研修の期間:①2024年7月6日、7月12日午前・午後、7月17日、②6月14日午前・午後、6月21日、③8月22日・9月20日

・実施回数:9回

・研修の参加人数:192名

○中央検査部

1.

・研修の主な内容:シミュレーション研修

『検査中、患者が倒れた、具合が悪くなった時の対応』

・研修の期間:2024年3月8日～11月28日

・実施回数:3 回

・研修の参加人数:24 名(臨床検査技師)

2.

・研修の主な内容:シャントについて

『シャント血管に穿刺しないために』

・研修の期間:2024年3月29日～4月12日

・実施回数:11 回

・研修の参加人数:56 名(臨床検査技師)

3.

・研修の主な内容:新規入職者教育

『ISO 15189、文書台帳、記録台帳の教育、危機管理、電話を受けた時の対応など』

- ・研修の期間:2024年4月8日～4月30日

- ・実施回数:16 回

- ・研修の参加人数:21 名(臨床検査技師)

4.

- ・研修の主な内容:フレキシブルな認定範囲の管理要員教育

- ・研修の期間:2024年4月14日～12月19日

- ・実施回数:9 回

- ・研修の参加人数:27 名(臨床検査技師)

5.

- ・研修の主な内容:品質管理者養成

- ・研修の期間:2024年7月4日～10月10日

- ・実施回数:19 回

- ・研修の参加人数:6 名(臨床検査技師)

6.

- ・研修の主な内容:日当直者 緊急生化学機器の新規運用について

- ・研修の期間:2024年7月26日～8月15日

- ・実施回数:12 回

- ・研修の参加人数:54 名(臨床検査技師)

7.

- ・研修の主な内容:接遇研修

- ・研修の期間:2024年10月1日～10月4日

- ・実施回数:3 回

- ・研修の参加人数:17 名(臨床検査技師)

8.

・研修の主な内容:化学物質・毒劇物について

・研修の期間:2025年1月22日

・実施回数:1 回

・研修の参加人数:10 名(臨床検査技師)

○薬剤部

・研修の主な内容:新薬説明会等

・研修の期間・実施回数:2024年6月18日、6月20日、6月25日、7月18日、7月23日、7月25日、7月26日、8月5日、8月7日、8月21日、9月19日、9月20日、9月25日、10月1日、11月19日、11月21日、11月22日、11月25日、11月27日、12月10日、12月11日、12月12日、12月26日、2025年1月14日、1月15日、1月16日、1月20日、1月21日、1月23日、1月29日、1月30日、3月14日、3月18日、3月27日、計34回

・研修の参加人数:8人(6月18日)、8人(6月20日)、7人(6月25日)、5人(7月18日)、6人(7月23日)、5人(7月25日)、4人(7月26日)、3人(8月5日)、2人(8月7日)、6人(8月21日)、5人(9月19日)、8人(9月20日)、4人(9月25日)、2人(10月1日)、5人(11月19日)、2人(11月21日)、2人(11月22日)、7人(11月25日)、4人(11月27日)、3人(12月10日)、3人(12月11日)、7人(12月12日)、8人(12月26日)、10人(1月14日)、3人(1月15日)、3人(1月16日)、6人(1月20日)、2人(1月21日)、5人(1月23日)、2人(1月29日)、6人(1月30日)、3人(3月14日)、6人(3月18日)、2人(3月27日)

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

○薬剤部

1・研修の主な内容:薬薬連携研修会

・研修の期間・実施回数:2024年7月26日、計1回

・研修の参加人数:46人

2・研修の主な内容:薬科大学教員実務研修

・研修の期間・実施回数:毎月4～5日/人

・研修の参加人数:5人

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	2. 現状
管理責任者氏名	阿部信二(病院長代行)
管理担当者氏名	大野芳正(副院長、医療安全、資材管理、薬事担当) 阿部信二(副院長兼務、危機管理、BCP、診療(内科)、教育・研究担当) 永川裕一(副院長、診療部長、診療(外科)、手術室運営担当) 鈴木亮(副院長、医療・企業連携、医療サービス・広報・社会連携担当) 高城由紀(副院長、看護部長、多職種連携担当) 松村一(病院長特別補佐、医療情報管理・電子カルテシステム更新担当) 里見和浩(病院長特別補佐、働き方改革担当) 遠藤健司(病院長特別補佐、手術部支援室長、予約診療センター担当) 菅野義彦(医療の質・安全管理部長、医療の質管理室長) 浦松雅史(医療安全管理室長) 渡邊秀裕(感染制御部長) 竹内裕紀(医薬品安全管理責任者、薬剤部長) 本間宙(医療機器安全管理責任者) 中澤弘一(臨床工学部長、集中治療部長) 醍醐象器(事務部長、医事課長、経営企画室長) 須田慎二郎(総務課長) 宮澤勝美(人事課長) 清水敬一郎(内部監査室長)

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	事項 規則第二十一条の三第二項に掲げる	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	総務課
		処方せん	薬剤部
		手術記録	電子カルテ
		看護記録	電子カルテ
		検査所見記録	HIS(NEC:MegaOak HR)のプログレスノート(電子カルテ記録)
		エックス線写真	電子カルテ
		紹介状	電子カルテ
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	電子カルテ
病院の管理及び運営に関する諸記録	事項 規則第二十一条の三第三項に掲げる	従業者数を明らかにする帳簿	人事課
		高度の医療の提供の実績	各診療科、医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	各診療科
		高度の医療の研修の実績	臨床研究支援センター
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部
	別掲	医療に係る安全管理のための指	医療安全管理室
			担当する各部門において

		針の整備状況		、コンピューター又はファイル等により保管管理している。
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	担当する各部門において、コンピューター又はファイル等により保管管理している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部、臨床研究支援センター	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部 放射線部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療情報管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	臨床研究支援センター
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	臨床研究支援センター
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者サポートセンター
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	内部監査室
		職員研修の実施状況	医療安全管理室 生涯教育センター
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室 薬剤部 臨床工学部 総務課
		管理者が有する権限に関する状況	法人人事課 法人会計課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	内部監査室
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	法人総務部総務課

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長代行 阿部 信二
閲覧担当者氏名	事務部長 醍醐 象器
閲覧の求めに応じる場所	・会議室
閲覧の手続の概要 病院宛若しくは病院長宛の公文書による依頼に基づき閲覧の申込みを受ける。 閲覧は関係する教職員の立ち会いを必要とする。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	2件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	1件
	地方公共団体	延	1件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11 第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
・ 指針の主な内容： 1. 目的 この指針は、学校法人東京医科大学における医療安全に関する基本指針の趣旨に基づき、東京医科大学病院における医療の安全を確保するために必要な体制並びに医療事故及びインシデント発生時の対応方法を示し、もって良質で安全な医療提供に寄与することを目的とする。 2. 基本的な考え方 (1) 質の高い医療を持続して提供するためには、安全管理体制のより一層の充実を目指す姿勢が重要である。この姿勢の確保は、全ての医療従事者の責務であり、全職員が医療の質の向上と安全の推進に取り組まなければならない。 (2) 病院長は、個人の努力に依拠する安全管理には限界があることを認識し、組織を挙げた安全管理体制の構築に努める必要がある。 (1) 医療安全管理責任者 (2) 医療安全管理委員会 (3) 医療安全管理室 (4) 医療安全管理者 (5) 医薬品安全管理責任者 (6) 医療機器安全管理責任者 (7) 医療放射線安全管理責任者 (8) 感染制御部 (9) 患者サポートセンター (10) 臨床研究支援センター 3) 病院長は、前項各号に掲げる者又は部門の運営に係る事項を定める。 4) 病院長は、医療安全管理責任者として、危機管理・教育担当の副院長をもって充てる。 5) 医療安全管理責任者は、医療安全管理委員会、医療安全管理室、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者並びに医療放射線安全管理責任者又は部門を統括するほか、以下に掲げる業務を行う。 (1) 医療安全管理体制を構築すること (2) 医療安全に関する職員への教育及び研修を実施すること (3) 医療事故等を防止するための情報収集、分析、対策立案及びフィードバック評価を行うこと (4) 医療事故等へ対応すること	

(5) 医療安全文化の醸成に資する活動をすること

3. 組織及び体制

1) 病院長は、「学校法人東京医科大学における医療安全に関する基本指針」第2条第2項各号に従い、次に掲げる者を任命し、又は部門を設置する。

4. 職員研修

1) 病院長は、医療安全への意識、多職種との連携業務の認識、業務の技能向上を目的として、医療に係る安全管理のための基本的な事項及び具体的な方策について、職員に対する研修を実施する。

2) 病院長は、医療法施行規則第9条の23第14号に規定する職員研修を実施する。

3) 病院長は、定期的に医療安全管理に係る研修を受講する。

4) 病院長は、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者並びに医療放射線安全管理責任者に、定期的に医療安全管理に係る研修を受講させる。

5. 報告等に基づく安全管理体制

全職員は、患者に望ましくない事象が発生した場合、又はその可能性を発見した場合には、別に定める規程に基づく報告をしなければならない。

6. 医療事故等発生時の対応

1) 全職員は、患者に医療事故等が発生した場合、患者の回復並びに患者及び家族等に対する情報提供に努める。

2) 病院長は、患者に医療事故等が発生した場合の対応に係る事項を定める。

7. 医療従事者と患者との情報共有等

1) 全職員は、患者等の個人情報保護を義務を有する。

2) 病院長は、個人情報保護に係る事項を定める。

3) 全職員は、患者が疾病や診療内容等を十分理解し医療上の意思決定ができるように、情報提供と説明を行う。

4) 全職員は、患者との情報共有に努める。

5) 病院長は、患者その他の病院利用者及び全職員がこの指針を閲覧可能とすること。

8. 患者からの相談への対応

病院長は、患者からの相談に対応する部門を設置し、及び相談に関する手続きを定める。

9. 高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に関する安全管理体制

1) 病院長は、高難度新規医療技術を用いた医療及び未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否等を決定する部門を設置する。

2) 病院長は、高難度新規医療技術を用いた医療及び未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に

、職員が遵守すべき事項及び前項の部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成する。

3) 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合、関係学会の基本的考え方やガイドライン等を参考に実施する。

10. 特定機能病院間の監査

1) 病院長は、他の特定機能病院の管理者と連携し、年に1回以上他の特定機能病院に従業者を立ち入らせ、必要に応じ、医療に係る安全管理の改善のための技術的助言を行わせなければならない。

2) 病院長は、年に1回以上他の特定機能病院の管理者が行う前項に規定する従業者の立入りを受け入れ、技術的助言を受けなければならない

② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況

- ・ 設置の有無（有）

- ・ 開催状況:年12回

- ・ 活動の主な内容:

1. 医療事故等を防止するための体制を確立すること

2. 医療事故等についての対応、情報収集、調査及び分析を指揮監督すること

3. 職員に対して医療事故等に関する情報を提供すること

4. 職員に対して医療事故等防止及び医療安全管理に関する教育をすること

5. 医療事故等が医療事故調査制度における医療事故調査・支援センターへの報告を要するものか否かを判断すること

6. 院内病因死因 (Morbidity and Mortality) 検討会 (以下「M&M検討会」という。) に対して、前号の判断のために必要な情報を取りまとめて、報告書の作成を指示すること

7. 医療安全管理委員会の所掌する下部の委員会等から報告を受けること

8. 医療事故等が発生した際、事象の事実及び発生前の状況について、職員に医療安全管理室へ報告させること

9. 前号の規定による報告の実施状況を確認すること

10. 前号の規定による確認結果を病院長へ報告すること

11. 第8号に規定する実施の状況が不十分な場合、適切な報告のための職員への研修及び指導を行うこと

12. 重大な問題その他医療安全管理委員会において取り扱うべき問題が発生した場合、速やかな原因究明のための調査及び分析を行うこと

13. 前号の分析結果を活用し、医療安全の確保のための方策の立案、実施、職員への周知を行うこと

14. 前号の医療安全の確保のための方策の実施状況の調査及び必要に応じた方策の見直しを行うこと

15. その他医療安全一般に関すること

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年2回
・ 研修の内容(すべて): 1) 医療法に定められた医療安全研修 ・第1回「心理的安全性と第三者からの当院の評価」、「医薬品安全情報の検索」、「医療ガス医療機器を安全に使用するために」、「診療放射線の安全利用」、「患者誤認-特に書類の渡し間違いについて-」、「より安全な鎮静を」、「SPEAK UP」 ・第2回「セルフケアのススメ」、「デバイスのセキュリティ対策について」、「RRSを患者さんの急変防止に役立てよう」、「SPEAK UP 2」、「患者を守るアラームに慣れていませんか?」、「ポリファーマシー対策」、「死亡診断書記載にあたっての注意事項」 2) 中途採用・異動・帰任・育児休業復職者研修 院内の医療安全・感染対策・個人情報保護・医薬品の取り扱い・医療機器の取り扱い・放射線の安全利用・接遇・マナーについてのルールなどを周知、共有する目的で中途採用者・帰任者に対し研修を実施している。研修はe-learningを活用し、受講状況・理解度について、生涯教育センターと協力し、情報の共有・管理を行っている。 3) 初期臨床研修医研修 初期臨床研修医に対し、医療安全管理室での研修を1日設け、医療安全の基礎、院内の医療安全に関する取組、薬剤の知識の講義及び院内巡視を実施している。	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備（有） ・ その他の改善のための方策の主な内容: 1) イン트라ネットでのインシデントの報告 2) 日本医療機能評価機構への報告 3) 医療事故防止および医療の質確保に関する活動 4) 医療安全推進委員会(多職種混成チーム)による定期院内巡視と評価、および医療安全管理室の院内巡視(毎月1回) 5) 情報の一元化(職員が知っておくべき共有ファイルの指定と管理) 6) 職場安全会議を活用した多職種による合同カンファレンスの推進 7) インフォームドコンセント時の複数立ち合いの推奨(看護師の立ち合いの推奨) 8) 医療安全管理室ニュースレター、医療安全情報の配信による職員への周知 9) 医療安全マニュアル、医療安全マニュアルポケット版の改定作業	

10) 3施設間医療安全相互ラウンドの実施

東京医科大学には3施設の病院がある。同系列病院として安全管理の質向上と相互理解、情報共有などを図る目的で、3病院医療安全相互ラウンドを実施している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11 第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
・ 指針の主な内容： 1. 院内感染対策の基本的な考え方を示して、感染症発生防止に留意し、発生時には速やかな制圧を全職員で図る。 2. 病院長直属の中心的な組織、感染制御部を設ける。 3. 対策の病院全体への周知・実施を行っていくため、感染症対策委員会と感染対策小委員会の設置感染リンクドクター・リンクナースを配備する。 4. 病院職員に対しては基本的な考え方や具体的な方策に関する研修会を開催する。 5. 感染症に関する注意情報を随時発するとともに、院内における耐性菌の検出状況および抗菌薬適正使用状況を感染症対策委員会・診療合同会議・医局長会議・看護師長会議・職場安全会議等にて報告する。 6. 感染症発生時には、職員はすみやかに感染制御部へ報告し、感染制御部は原因究明・改善策を検討する。検討した内容は感染症対策委員会で協議の上、各種会議等を通じ全職員に周知徹底する。 7. 指針は患者その家族が閲覧できる。患者・家族にも感染防止の意義や手技を説明し協力を求める。 8. 職員はマニュアルを遵守するとともに、自らの健康管理に留意する。	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容： 1. 微生物検査室からの耐性菌分離レポートの集計結果による発生動向の把握と分析。 2. 感染制御部ラウンド巡視状況の報告（対象：広域抗菌薬投与例、病棟・外来環境ラウンド、耐性菌分離例、アウトブレイク事例等） 3. 抗菌薬適正使用推進に関する対応（指定抗菌薬の届出状況、広域抗菌薬の使用状況、抗菌薬適正使用支援介入について、入院、外来、診療科での抗菌薬使用状況等） 4. 感染制御部立案の具体的対策案について、各種職種代表者による審議。 5. 対策案・注意喚起情報の職員への周知（診療合同会議・科長会議・看護師長会議・総医局会・中央診療部門の各部署での会議や院長通達、ポータルサイトや書面等による委員会からの情報発信など。 6. マニュアル・ガイドラインなど院内の感染対策に関わる規約等の最終決議。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年47回
・ 研修の内容(すべて)：	

1. 新採用者オリエンテーション:

院内感染対策組織・マニュアル、標準予防策、感染経路別予防策、血液体液曝露事故(針刺し事故等)対応、手指衛生・個人防護具着脱演習、新型コロナウイルス感染症対策(実施回数:1回)

2. 医療安全研修会:

1) 1回目「SPEAK UP」言ってみよう やってみよう

1. ICTラウンド新scheduleと項目
2. 血液体液曝露事故(針刺し事故等)への注意
3. 尿道カテーテル留置を考えよう
4. TDMインシデントにはこんなものがある
5. AMRから内服のマクロライドを減らそう
6. 指定抗菌薬投与前には血液培養を実施しよう
7. 新感染症ポケットガイド(医師版と看護師版)が出たよ
8. 患者さんからトイレの汚れについて相談あったら

2)2回目「SPEAK UP 2」

1. 血液体液曝露事故を減らそう
2. 感染症対策マニュアル 第6版 ができました
3. 血液培養検査 1回採血2セット採取
4. 感染症ポケットガイドを活用しよう(医師版、看護師版、看護助手版)

3. 定例研修会

1回目

第1部:2つのカテーテル関連感染症を防ごう

「①カテーテル関連尿路感染症(CAUTI)を防ぐために当院での現状と対策」

「②カテーテル関連血流感染症(CRBSI)を防ぐために当院での現状と対策」

第2部:血液培養のこれからを考える

「有効な血液培養を実施しつつ検査ボトルの供給不足をどう乗り切る？」

2回目

「①白衣は白衣ボックスにちゃんと入れている？」

「②白衣ポケットに入れたアルコール消毒綿は清潔ではない」

「③ネズミ・ダニ対策はここまで進んだ」

4. 感染リンクナース研修

感染リンクナースの役割、手指衛生5つのタイミングの理解、手指衛生直接観察法の理解、年間活動方針、定

例データのフィードバック、手指衛生の5つのタイミングを示したシナリオ作成、医療関連感染予防の実技演習(閉鎖式コネクタの消毒方法・尿道カテーテル管理・目の保護具の使用方法)、外来ICTラウンドガイドブックの作成、病棟の改善活動報告、年間評価(実施回数:4回)

5. 臨床研修医のためのレクチャー

総論、微生物、耐性菌、感染臓器、治療総論、抗菌薬各論①、抗菌薬各論②(実施回数:7回)

※ランチョンセミナー:感染症シリーズ①～⑥(実施回数:6回)

①君たちはどう学ぶか? 研修医がいま感染症を学ぶ意味

②患者? 自分? 誰のため? みんなを守る感染対策 最強レッスン

③感染症診療の三要素① 感染臓器の同定と培養検査

④感染症診療の三要素② 培養評価のための微生物総論

⑤感染症診療の三要素③ 適切な抗菌薬選択と考え方

⑥実践! 入院患者の急な発熱 その発熱、正しく対応できますか?

※ランチョンセミナー:症例から考える抗菌薬の使い方①～②(実施回数:2回)

①実践! 当直中の発熱患者 外来での発熱の考え方

②実践! 最適な対応を考えよう 発熱患者 検査と治療の考え方

6. 委託業者への勉強会:

1回目:1.ノロウイルスについて

2回目:1.薬剤耐性菌について 2. 手指衛生(蛍光剤を用いた演習)

7. 中途採用・帰任者医療安全研修会:感染対策について(都度実施)

8. その他

ICTC(感染対策トレーニングコース)PPE編と手指衛生編の2系統(実施回数:計13回)

看護補助者研修 1. 標準予防策(洗浄・消毒)2. 簡易顕微鏡での細菌観察 3. 環境整備(夜間助手:1. 手指衛生 2. 環境整備 3. 医療機器 4. 検体の取り扱い)(実施回数:8回)

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)

・ その他の改善のための方策の主な内容:

1. 耐性菌発生を減らすための広域抗菌薬使用者リストアップ・血液培養陽性者/耐性菌検出者リストアップに対する現場のラウンドによる指導。
2. 院内感染対策ラウンドによる基本手技、医療行為、デバイス管理、病院環境のチェックと指導。
3. マニュアルの見直し・検討・改訂。

4. 感染リンクナースの年間活動計画に基づくグループ活動の実施。
5. 感染リンクナースによる自己チェック表を用いた自己評価と改善活動報告。
6. 各部署における耐性菌アウトブレイク値の設定に基づく早期介入。
7. 人事課との協同によるワクチン接種プログラムの計画立案・実施・評価。
8. 感染防止対策地域連携加算に関する連携医療機関とのカンファレンス(実施回数:4回)。

(注)前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11 第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
・ 研修の主な内容： 1 新人教育研修：医薬品管理について(麻薬、向精神薬、特定生物由来製品等)(年1回) 2 院内医療安全研修会(年2回) ・ 医薬品安全情報の検索 ・ ポリファーマシー対策	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 手順書に基づくチェックシートを作成し、各部署での業務が適切に行われているかを薬剤師が確認している。病院全体および薬剤部については年2回、病棟および外来部門については月1回の確認を実施している。各部署における医薬品の在庫、使用期限の確認もチェック時に同時に実施し、適正な在庫管理に努めている。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： 海外製各種感染症ワクチン製剤 海外製HIV治療薬および日和見感染症治療薬 ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医薬品の安全使用およびその他医薬品に関する情報は、厚生労働省、PMDA、製薬企業、学会、医療情報提供団体のWebサイト、新聞、雑誌等から入手し、必要に応じて加工し、院内に周知している。院内には月1回発行の薬剤部作成の情報誌を配布、および診療合同会議で内容の周知を行い、必要に応じて別途、院内に連絡文書を配布・配信および院内ポータルサイトで周知している。 HBV再活性化のおそれがある医薬品を使用中の患者のスクリーニングを実施し、診療科に検査実施の依頼をしている。 院内で発生した医薬品の副作用についての情報は、電子カルテ上での報告システムより収集する。収集された副作用の情報は、医薬情報室にて管理し、薬事ニュースに掲載し院内に公開するとともにPMDAに報告し	

ている。

医薬品の適応外使用や未承認薬の使用については原則、診療科による医薬品適応外使用・禁忌評価部会および未承認新規医薬品等の使用に係る評価委員会への申請のより把握する体制を構築している。その他に医薬品安全管理に関する情報は、調剤業務、病棟薬剤師業務、医薬品安全使用のための業務手順書のチェックシート等により収集する。収集された情報は医薬情報室にて管理し、医薬品安全管理責任者等に報告している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11 第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年251回
・ 研修の主な内容: 【医療機器の定期研修・新規導入機器研修・デモ研修 年251回】 【人工呼吸器／酸素療法／周辺機器定期研修 年60回】以下、人工呼吸器研修 1) プレシジョンフロー&SIPAP 2024/5/20 NICU／GCU看護師6名 2) 呼吸勉強会(ドレーゲル・IMI・フタ) 2024/5/28 NICU／GCU看護師42名 3) ハミングVue 2024/6/7 EICU看護師・医師 9名 4) Servo-air 2024/6/13/14 19A看護師15名 5) 在宅用呼吸器勉強会 2024/6/28 EICU看護師・医師 44名 6) Servo-air 2024/7/1-8 16A看護師10名 7) 人工呼吸器について(実機説明会) 2024/8/2 ICU看護師 11名 8) ファビアン、AIRVO2 2024/9/3-6 14B看護師10名 9) V60NPPV実機勉強会 2024/10/9-17 15B看護師21名 10) NPPV＋NHF実機勉強会 2024/10/8-18 19A看護師10名 11) NPPV＋NHF実機勉強会 2024/10/10-22 12A看護師16名 12) 人工呼吸器・生命維持管理装置全般 2024/7/25-10-31 放射線部・理学療法部44名 13) 人工呼吸器 NHF＋NPPV＋Servo-air 2024/11/7-8 13B看護師13名 14) 自動カフについて 2024/11/20-12/6 臨床工学部技士 25名 15) NPPV＋NHF実機勉強会 2024/12/4-5 19B看護師8名 16) Servo-air(smartcuff) 2025/1/15-22 11A看護師30名 17) Servo-air(smartcuff) 2025/1/21-30 12B看護師10名 18) Servo-air(smartcuff) 2025/1/24 15A看護師10名 19) V60NPPV実機勉強会 2025/2/21 15A看護師8名 20) V6NPPV実機勉強会 2025/2/26-27 12B看護師11名 21) Servo-air(smartcuff) 2025/3/4-11 12B看護師12名	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	

・ 医療機器に係る計画の策定 (有)

・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 9,489件

臨床工学部部門システムで管理している保守点検の実施記録

1) 中央管理機器：人工呼吸器、血液浄化装置、人工心肺装置、補助循環装置、輸液ポンプ、シリンジポンプ、生体情報モニター、自動血圧計、除細動器、他

2) 閉鎖式保育器

3) X線CT装置

4) 診療用高エネルギー放射線発生装置

5) 診療用放射線照射装置

6) MRI装置

院内で所有している医療機器を資材課資産台帳と突合し点検の実施を把握している。

前年度3月に保守点検の策定をし、実施を記録している。

放射線部(医療機器安全管理実務者)と連携し、策定報告を受ける。

④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有)

・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)：2024年度なし

・ その他の改善のための方策の主な内容：

主にインシデント報告事例に対し、毎月の職場安全管理者会議にて全職員に周知スライドを掲載している。

2024年4月ハイフローセラピーの専用カニューレの取違いがあり、2種類のカニューレの画像を利用し周知した。

《ハイフローセラピー専用カニューレには鼻用と気管切開用の2種類があります。臨床工学部では専用装置貸出時に、鼻カニューレ各サイズ、気管切開用カニューレを装置にセットしています。適切なカニューレを選択後、使用しないカニューレは臨床工学技士が速やかに回収します。》

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有
・責任者の資格(医師・歯科医師) ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 医療安全管理責任者(医師)が、医薬品安全管理責任者、医療安全機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者、医療安全管理部門の出席する医療安全管理委員会に出席し、全体の業務を把握している。 医療安全管理部門に医薬品及び医療機器安全管理実務者を介し連携するよう指示を出し、医療安全管理室において毎朝のミーティングで情報共有が行われていることに加え、検査部門及び放射線部門との連携も図るため、週1回の拡大ミーティングへの参加を指示している。 また、有事の際は直接連絡がくる体制をとっている。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(10名)
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品の安全使用およびその他医薬品に関する情報は、厚生労働省、PMDA、製薬企業、学会、医療情報提供団体の Web サイト、新聞、雑誌等から入手し、必要に応じて加工し、院内に周知している。院内には月1回発行の薬剤部作成の情報誌を配布、および診療合同会議で内容の周知を行い、必要に応じて別途、院内に連絡文書を配布・配信および院内ポータルサイトで周知している。 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 国内未承認の医薬品を使用する場合には、事前に院内の委員会で審議対応が必要である。そのため、臨床研究支援センターや診療科から薬剤部に相談、連絡等がある。 ・担当者の指名の有無(有) ・担当者の所属・職種: (所属:薬剤部, 職種:薬剤師)	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容: 院内診療記録監査(1回/年、5件/科、全科通年開催)、説明同意書量的点検(スキャン時/全件)、IC テンプ	

レート点検等

[指導内容]院内診療記録監査(説明の内容、患者の反応、同席者等)ではピアレビュー結果を報告書として各診療科へフィードバック。結果に基づき各科医局内で指摘事項を周知、診療情報管理委員会、診療合同会議にてIC 責任者・診療情報管理委員長が全体周知および指導を実施している。

・IC 責任者によるeラーニング(通年掲載)

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容:

質的点検:院内診療記録監査(1科5件/年入院・外来、全診療科)共通監査シートを用いた医師ピアレビュー形式で通年開催

量的点検:入院診療記録の医師退院時要約、手術記録、入院診療計画書、退院療養計画書、指導医カウンターサイン実施状況、IC記録等

[指導内容]入院診療記録(記載不備等)では作成者・診療情報管理委員・病棟医長・科長へ督促、院内診療記録監査(診療録等の十分な記載)は報告書に基づき各科医局内で指摘事項を周知、診療情報管理委員会、診療合同会議を通じ院内全体に周知を行っている。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有

・所属職員:専従(9)名、専任()名、兼任(1)名

うち医師:専従(3)名、専任()名、兼任(1)名

うち薬剤師:専従(1)名、専任()名、兼任()名

うち看護師:専従(2)名、専任()名、兼任()名

(注)報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容:

1)医療安全管理委員会、医療安全推進委員会、院内病院死因(M&M)検討会、職場安全管理者会議、CVライン管理部会、VTE管理部会、院内救急対応委員会、看護師による静脈注射管理部会、侵襲的処置・検査施行時の鎮静管理部会等、各種委員会・部会の運営。

2)事故等の発生時の対応

・診療録の確認、情報の収集

・患者への説明等の適切な対応、調整

- ・原因の分析、改善策の立案、職員への周知、改善策の実施状況の確認等

3) 死亡患者の確認

- ・死亡の事実確認、及び死亡に至るまでの状況の確認(定期的な病院長への報告)

4) 他の特定機能病院との連携

- ・都内私大病院安全連絡会議
- ・私立医科大学病院 医療安全相互ラウンド

5) 職員研修の実施

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数(2件)、及び許可件数(2件)
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無(有)
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無(有)
- ・活動の主な内容:

高難度新規医療技術による医療提供を行う場合は、診療科長より臨床研究支援センター先端医療管理部門(以下、部門)へ申請する。部門でその申請内容を確認の後に、高難度新規医療技術評価委員会(以下、委員会)へ評価を依頼する。委員会の意見に基づき、部門にて意見交換を経て部門の長(高難度医療技術を用いた医療の提供に関する経験及び知識を有する医師)が意見をまとめ適否を決定する。その結果を診療科長へ通知し、病院長へも報告する。医療提供を行った場合は、実施報告、経過報告、有害事象が発生した場合の有害事象報告を診療科長が部門へ提出する。部門では報告内容を診療録で確認し、意見をまとめた上で診療科へ意見を伝えろと共に病院長へ報告する。病院長から部門へ指示があった場合は、速やかに診療科へ伝える。部門内の意見交換の結果、委員会の再評価が必要と考えられた場合は、委員会へ評価依頼をして上記のプロセスを繰り返す。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無(有)
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無(有)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数(0件)、及び許可件数(0件)
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無(有)
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無(有)
- ・活動の主な内容:
未承認新規医薬品等を用いた医療提供を行う場合は、診療科長より臨床研究支援センター先端医療管理部門(以下、部門)へ申請する。部門でその申請内容を確認の後に、未承認新規医薬品等に係る評価委員会または未承認医療機器に係る評価委員会(以下、委員会)へ評価を依頼する。委員会の意見に基づき、部門にて意見交換を経て適否を決定する。その結果を診療科長へ通知し、病院長へも報告する。医療提供を行った場合は、実施報告、経過報告、有害事象が発生した場合の有害事象報告を診療科長が部門へ提出する。部門では医薬品安全管理責任者または医療機器安全管理責任者とともに報告内容を診療録で確認し、意見をまとめた上で診療科へ意見を伝えると共に病院長へ報告する。病院長から部門へ指示があった場合は、速やかに診療科へ伝える。部門内の意見交換の結果、委員会の再評価が必要と考えられた場合は、委員会へ評価依頼をして上記のプロセスを繰り返す。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無(有)
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無(有)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況:年 680 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況:年 276 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - 1) 医療事故及び有害事象を防止するための体制の確立
 - 2) 医療事故等についての対応、情報収集、調査及び分析を指揮監督する
 - 3) 職員に対して医療事故に関する情報を提供する
 - 4) 職員に対して医療事故等防止及び医療安全管理に関する教育をする
 - 5) 医療事故が医療事故調査制度における医療事故調査・支援センターへ報告を要するものか否かの判断

6) 院内病院死因(M&M)検討会に対して5)の判断のために必要な情報を取りまとめて、報告書の作成を指示する

7) 委員会が所掌する下部の委員会から報告を受ける

8) 医療事故が発生した際、事象の事実及び発生前の状況について、職員に医療安全管理室へ報告させる

9) 8)の規定による実施状況を確認する

10) 8)の規定による確認結果を管理者へ報告する

11) 8)に規定する実施状況が不十分な場合、適切な報告のための職員への研修及び指導を行う

12) 重大な問題その他、医療安全管理委員会において取り扱うべき問題が発生した場合、速やかな原因究明のための調査及び分析を行う

13) 分析結果を活用し、医療安全確保のための方策の立案、実施、職員への周知を行う

14) 改善のための方策の実施状況の調査と必要に応じた方策の見直しを行う

15) その他医療安全全般

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り(有(病院名:杏林大学医学部附属病院))

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ(有(病院名:杏林大学医学部附属病院))

・技術的助言の実施状況

特記事項なし

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

・1Fに患者サポートセンターを設置し、専門の事務担当者が相談に応じている。必要に応じて多職種と連携し対応を行っている。

・相談内容は、平日毎日開催している早朝カンファレンス、週1回開催している患者サポート体制多職種カンファレンス、月1回開催している各部署代表者が参加するサービス向上委員会で共有、検討を行っている。

・医療安全上の問題については、患者サポートセンター副センター長を兼務している医療安全管理室長に適宜情報共有を行い、患者対応に関する協議を行っている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

○医療安全管理室

[医療法に定められた医療安全研修]

6月と11月に実施。対象は全職員であり、常勤・非常勤問わず受講対象とし、常勤の受講は必須としている。研修はe-learningによる受講とした。

○生涯教育センター

[中途採用・帰任者研修]

中途採用者(派遣含む)と、帰任者(勤務最終月の翌月から6ヵ月を超えて離職している復職、産休・育休明けの職員、ならびに施設間異動の職員)を対象に、東京医科大学病院 e-learning システムを用いて「医療安全」「感染対策」「個人情報保護」「薬品管理」「医療機器管理」「患者接遇」「コンプライアンス」「医の倫理(臨床倫理)」に関する研修を毎月就業前に実施している。研修未受講者は院内の電子カルテシステムの利用ができない。研修内容については、毎年1回作成部署・担当者に確認し更新している。

(注)前年度の実績を記載すること(⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者:2025年度特定機能病院管理者研修受講予定(初回 第2回)公益財団法人日本医療機能評価機構

(2026年2月2日予定)(前任者)2024年度特定機能病院管理者研修(継続 第2回・6時間)公益財団法人日本医療機能評価機構(2024年12月9日受講)

医療安全管理責任者:2025年2月14日:2024年度 特定機能病院管理者研修
(継続 第6回・6時間)

医薬品安全管理責任者:2024年度特定機能病院管理者研修(継続 第3回・6時間)(受講日:2024年12月12日)

医療機器安全管理責任者:本間 宙 主任教授 救命救急センター長

2024年度特定機能病院管理者研修

2025年1月15日修了

(注)前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

2023年3月16日～18日 公益財団法人 日本医療機能評価機構

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

2023年10月6日に評価認定を示す認定証が交付された。

この結果に関する改善要望事項に該当する項目はなかった。

なお、認定証は2023年11月7日に大学病院HPにて公開済み。

・評価を踏まえ講じた措置

特になし

(注)記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
・ 基準の主な内容 東京医科大学病院長、茨城医療センター病院長及び八王子医療センター病院長選出規程第5条において、次のとおり規定している。 病院長は、次に掲げる要件を満たす者とし、選考委員会は、具体的な選考基準(病院長に求められる資質・能力)を策定し、公表するものとする。ただし、特定機能病院の病院長を選考する際には、第3号及び第4号のかっこ書に記載された事項を選考基準に含めるものとする。 (1) 臨床研修修了医師であること。 (2) 心身ともに健全であること。 (3) 人格が高潔で、組織管理能力等病院の管理運営に識見を有すると認められること(病院内外での組織管理経験)。 (4) 医療安全確保のための必要な資質・能力を有していると認められること(医療安全管理業務の経験、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力)。 (5) 過去3年以内に停職以上の懲戒を受けていないこと。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無(有) ・ 公表の方法 選考時にホームページに記載

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有			
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有 ） ・ 公表の方法 ホームページに記載				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
永井 秀三	常務理事	○	病院長選出規程第4条第1項第1号	無

			に基づき理事(教授会代表者会議構成員を除く。)から選出 (理事による投票により卒業生理事から選出)	
醍醐 象器	大学病院事務部長		病院長選出規程第4条第1項第1号に基づき理事(教授会代表者会議構成員を除く。)から選出 (理事による投票により卒業生理事及び外部理事以外の理事から選出)	無
望月 稔	常務理事		病院長選出規程第4条第1項第1号に基づき理事(教授会代表者会議構成員を除く。)から選出 (理事による投票により外部理事から選出)	無
池田 徳彦	主任教授		病院長選出規程第4条第1項第2号に基づき教授会代表者会議構成員から選出 (教授会代表者会議構成員の投票により現職の大学病院長を除く構成員から選出)	無
菅野 義彦	主任教授		病院長選出規程第4条第1項第2号に基づき教授会代表者会議構成員から選出 (教授会代表者会議構成員の投票により現職の大学病院長を除く構成員から選出)	無
林 由起子	主任教授		病院長選出規程第4条第1項第2号に基づき教授会代表者会議構成員から選出 (教授会代表者会議構成員の投票により現職の大学病院長を除く構成員から選出)	無
渡邊 秀裕	教授		病院長選出規程第4条第1項第3号に基づき教育職員から選出 (診療科長・部長会議、臨床教授会議構成員の互選による大学病院からの被推薦者について理事会承認により選出)	無
宮澤 勝美	大学病院人事課長		病院長選出規程第4条第1項第4号に基づき事務系・看護系・技術系職員から選出 (病院管理会議・経営戦略会議構成員の互選による大学病院からの被推薦者について理事会承認により選出)	無
渋谷 明隆	神奈川県厚生農業協同組合連合会相模原協同病院		病院長選出規程第4条第1項第5号に基づき選出された外部有識者 (北里大学教授、北里大学病院副	無

	病院長		院長、北里研究所常任理事を歴任されたのち、現在相模原協同病院病院長を務めており、病院の管理運営及び医療安全確保に関し広くかつ高い識見を有する者)	
松本 守雄	慶應義塾大学病院 病院長		病院長選出規程第4条第1項第5号に基づき選出された外部有識者 (慶應義塾大学整形外科学講座主任教授を経て、現在慶應義塾大学病院病院長を務めており、病院の管理運営及び医療安全確保に関し広くかつ高い識見を有する者)	無
山口 徹	国家公務員共済組合連合会虎の門病院 名誉院長		病院長選出規程第4条第1項第5号に基づき選出された外部有識者 (東邦大学第三内科主任教授、虎の門病院院長を歴任しており、病院の管理運営及び医療安全確保に関し広くかつ高い識見を有する者)	無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無			有
・合議体の主要な審議内容 病院管理会議において、「経営戦略」及び「病院運営」の二つの要素から構成する。「病院運営」については、病院の最高協議体として、病院の運営・経営管理上必要となる諸事項を審議し、決議する。また、その執行にあたり、病院長を補佐する。 ・審議の概要の従業者への周知状況 議事を記録し、委員へ配布及び文書管理システムへ収載するとともに、各委員会へ審議結果を下ろし、従業員へ周知が必要な事項については、文書、掲示板などを利用して周知する。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有） ・公表の方法 文書管理システム ・外部有識者からの意見聴取の有無（無）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
阿部 信二	○	医師	病院長代行
大野 芳正		医師	副院長
永川 裕一		医師	副院長
鈴木 亮		医師	副院長
高城 由紀		看護師	副院長 (看護部長)
松村 一		医師	病院長特別補佐 (医療情報管理・電子カルテシステム更新担当)
里見 和浩		医師	病院長特別補佐(働き方改革担当)
遠藤 健司		医師	病院長特別補佐(手術部支援担当・予約診療センター担当)
醍醐 象器		事務	事務部長(医事課課長・経営企画室長兼務)
渡邊 秀裕		医師	感染制御部長
菅野 義彦		医師	医療の質・安全管理部長
竹内 裕紀		薬剤師	薬剤部長
矢崎 義直		医師	総医局会長
平山 さとみ		看護師	医療安全管理者

反町 和正		看護師	中央手術部看護師長
中澤 弘一		医師	集中治療部長
田口 裕子		看護師	集中治療部師長
合谷木 徹		医師	麻酔科診療科長
上野 竜一		医師	リハビリテーションセンター 医局長
内田 健二		技師	放射線部技師長
古谷 弘一		技師	中央検査部技師長
山田 眞由美		技師	臨床工学部技士長
鎌田 智恵子		看護師	看護部 副看護部長 病床コントロール担当
伊藤 良和		医師	臨床研究支援センター長
相澤 卓		医師	医療保険室長
須田 慎二郎		事務	総務課長
宮澤 勝美		事務	人事課長
三島 修		事務	会計課長
杵 直樹		事務	施設課長
岡田 親		事務	資材課長
酒井 誓一		事務	広報・社会連携推進室 課長補佐(法人本部)

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有 ）

・ 公表の方法

イントラネット・ホームページ

・ 規程の主な内容

①東京医科大学病院就業規則

②学校法人東京医科大学職員任免規程

③学校法人東京医科大学人事審査会規程

④学校法人東京医科大学人事審査会規程内規

⑤学校法人東京医科大学会計経理規程

⑥学校法人東京医科大学会計経理規程施行細則

⑦学校法人東京医科大学予算委員会規程

・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

【職名】副院長

【役割】病院長を補佐（医療安全、資材管理、薬事担当、危機管理、BCP、診療（内科）、教育・研究担当、診療部長、診療（外科）、手術室運営担当、医療・企業連携、医療サービス・広報・社会連携担当、多職種連携担当）

【職名】病院長特別補佐

【役割】病院長の特命事項に係る調査・企画等を担当（医療情報管理・電子カルテシステム導入担当、働き方改革担当、手術部支援室・予約診療センター担当）

【職名】診療部長

【役割】病院長の指示に従い診療部門を統括

【職名】経営企画室長

【役割】病院経営の改善に係る企画立案及び実施他

【職名】医療安全管理室長

【役割】医療安全部門の統括

【職名】感染制御部

【役割】感染制御部門の統括

・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

接遇研修、コンプライアンス研修、ハラスメント防止研修、医療安全研修、階層別研修(新人、主任、係長、管理職)

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					有
・監査委員会の開催状況:年2回 ・活動の主な内容: (1) 医療安全管理者、医療安全管理室、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者、感染制御部等の業務状況について病院長等からの報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施すること。 (2) 必要に応じて理事長、又は病院長に対し医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を上申すること。 ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無(有) ・委員名簿の公表の有無(有) ・委員の選定理由の公表の有無(有) ・監査委員会に係る内部規程の公表の有無(有) ・公表の方法:					
監査委員会の委員名簿及び選定理由(注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
落合 和徳	医療法人社団 三成会 新百合 ヶ丘総合病院 常勤顧問	○	東京慈恵会医科大学附属病院副院長(医療安全担当)としての勤務経験があり、医療安全に関する学会理事及び婦人科領域における代表者を務めるなど公職経験も豊富であり、専門的識見を有する者	無	1.医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
安原 幸彦	東京南部法律 事務所 弁護士		弁護士として法律事務所に勤務しており、医療過誤訴訟等の経験や医療に係る法律に関する識見を有する者	無	1.医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
桑原 公平	西新宿六丁目 町会		建設系一般事業会社での勤務経験を有し、区議会	無	2.医療を受ける者その他の医療従事者以外の

	会長		議員を経て近隣地区町会長を現任する、医療を受ける者の一般的な観点から発言ができる、非医療従事者に該当する者		者
--	----	--	---	--	---

(注)「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

監事の業務監査として、期中監査において、医療安全に係る会議に出席又は議事録の閲覧等を行い、法令等に適合しているかを確認している。

また、期末監査においては、内部監査室も同席のもと、病院長は業務の執行状況の説明を行うこととし、監事による業務に関する質問、指摘、意見等に対しては、病院長が直接、回答、説明することを求めている。

また、業務の詳細については、関係部署の責任者の説明や関連資料の提出を求めることにより、管理者である病院長の業務が法令等に違反することなく適正、公正に行われていることを確認している。併せて病院業務における課題、改善に向けた意見、提言等を行っている。

内部監査室は、法人本部の監事室として、監事の業務を補佐するとともに、業務プロセスに係る内部監査を実施し、病院長の業務が法令等に違反することなく適正、公正に行われていることを確認し、改善に向けた意見を提示している。

また、監事、内部監査室、会計監査人による三様監査部門会議を定期的に行い、各々の監査状況の報告、問題点の確認、改善策の検討を行っている。

- ・ 専門部署の設置の有無（ 有 ）
- ・ 内部規程の整備の有無（ 有 ）
- ・ 内部規程の公表の有無（ 有 ）
- ・ 公表の方法

大学のホームページ

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 理事会にて病院の管理運営状況等を監督する。理事会は理事を構成員として組織し、理事の業務執行状況の監査の為、監事も同席している。理事会は原則月1回定例に開催するほか、必要に応じ臨時に開催され、法人における最高決定機関と位置付けられており、法人の一切の業務を決し、理事の職務執行を監督する。理事会では病院の管理運営状況等の報告がされる他、予算・決算等に代表される法人の管理運営に係る重要事項全般が審議される。また、病院長は職責理事として理事会に参加する。 ・ 会議体の実施状況（令和6年度 年19回、令和7年度9回） ※令和7年度については8月5日まで。 ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有 ）（令和6年度 年19回、令和7年度7回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ） 寄附行為 ・ 公表の方法 大学ホームページに掲載			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 （○を付す）	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報
提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有） ・通報件数(年 0 件) ・窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（有） ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有） ・周知の方法 本学ホームページ、学報、医療安全マニュアルへの掲載、研修会での周知、携帯カードを全員に配付

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類(任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
・情報発信の方法、内容等の概要 ○ホームページ、冊子(病院案内)による情報発信 ○市民公開講座、子ども医学講座を実施	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 (1) 脳卒中センター 脳卒中に関連する診療科(脳神経外科、脳神経内科、高齢診療科、救命救急センター)が連携し、あらゆるタイプの脳血管障害に迅速に対応する体制を整えている。ひとつのチームとして定期的に合同会議を行い、脳卒中患者の情報を共有して総合的に治療にあたる。 (2) 口唇口蓋裂センター 口唇口蓋裂に関連する診療科(歯科口腔外科・矯正歯科、形成外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、小児科・思春期科、産科・婦人科)が連携して対応している。ひとつのチームとして定期的にカンファレンスを行い、患者さんの情報を共有しながら治療にあたる。 (3) 認知症疾患医療センター 認知症疾患に関連する診療科(高齢診療科、メンタルヘルス科)の認知症専門医が問診、神経心理検査、血液検査、画像診断、時に脳脊髄液検査などを施行し、認知症の早期診断と鑑別を行う。	

(4) 遺伝子診療センター

遺伝子疾患に関連する診療科(小児科・思春期科、産科・婦人科、臨床腫瘍科、循環器内科、臨床検査医学科、皮膚科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科)が、遺伝学的診断と遺伝性疾患に関する遺伝カウンセリングを行う。本人や家族の遺伝性疾患に関する疑問、心配、不安に関してのご相談に、臨床遺伝専門医が関連各科と連携したチーム医療で対応する。

(5) 細胞再生医療センター

細胞再生医療に関連する診療科(心臓血管外科、歯科口腔外科・矯正歯科、皮膚科)が、再生医療を法令遵守の下、安全で迅速に、効率的に臨床現場に提供することを目的としたセンター。

(6) 聴神経腫瘍・頭蓋底腫瘍センター

聴神経腫瘍・頭蓋底腫瘍に関連する診療科(脳神経外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科)が、豊富な手術経験、手術の技術、術中脳神経モニタリング、術前・術後の専門的な種々の検査、術前の腫瘍塞栓を行う脳血管内治療チームをそろえたセンター。

(7) 炎症性腸疾患・良性腸疾患センター

当院では消化器内科、小児科において主にIBDの診療を実施し、その中で手術対象例は消化器外科・小児外科で治療を行う。専門性の高い難病の炎症性腸疾患と良性腸疾患に特化した内科、外科および小児科の三科医師による円滑かつ密接した診療体系を構築し、専門の専属薬剤師、管理栄養士、臨床心理士と連携を密にすることで、薬剤の説明や栄養指導、メンタルケアを重点的に行い、より患者さんに適切で安全な医療を提供する。

(8) 膵臓・胆道疾患センター

診断・手術だけでなく、放射線治療、化学療法、血管内治療、病理診断、緩和医療など、一人一人の患

者さんの状態に応じた最適な診断・治療を行う必要があるため、消化器内科、消化器外科・小児外科、さらには放射線科、臨床腫瘍科、病理診断科の専門医が定期的にカンファレンスを行い、個々の患者さんの病態に応じた最良の医療を行う。

(9) アレルギーセンター

呼吸器内科、小児科・思春期科、皮膚科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、眼科のアレルギーを専門とする医師たちで構成され、複数のアレルギー疾患をお持ちの方や重症アレルギー疾患でコントロール不良な方、食物アレルギー等で診断がつかずにお困りの患者さんの為に適切な医療を提供する。